



BEA

WebLogic Server™

BEA WebLogic Express™

インストールガイド

BEA WebLogic Server 6.1

BEA WebLogic Server バージョン 6.1
マニュアルの日付：2003 年 4 月 2 日

著作権

Copyright © 2002-2003 BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Collaborate、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic E-Business Platform、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Process Integrator、BEA WebLogic Server、E-Business Control Center、How Business Becomes E-Business、Liquid Data、Operating System for the Internet、および Portal FrameWork は、BEA Systems, Inc. の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

BEA WebLogic Server インストール ガイド

パート番号	マニュアルの日付	ソフトウェアのバージョン
860-001001-008	2003 年 4 月 2 日	BEA WebLogic Server バージョン 6.1

目次

このマニュアルの内容

対象読者	x
e-docs Web サイト	x
このマニュアルの印刷方法	x
関連情報	xi
サポート情報	xi
表記規則	xii

1. WebLogic Server のインストール準備

BEA インストール プログラム	1-2
WebLogic Express のサポート	1-2
インストール方法	1-2
WebLogic Server の配布方法	1-3
WebLogic Server の Web 上での配布	1-3
WebLogic Server の CD-ROM での配布	1-3
サービス パックの Web 上での配布	1-4
WebLogic Server ソフトウェアのコンポーネント	1-4
システム要件	1-6
一時的ストレージ領域の要件	1-7
ソフトウェア要件	1-8
BEA ホーム ディレクトリ	1-8
BEA ホーム ディレクトリの選択	1-9
BEA ホーム ディレクトリの機能について	1-10
複数の BEA ホーム ディレクトリの作成	1-12
128 ビット暗号化の有効化	1-13
6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのアップグレード	1-14
インストールのロード マップ	1-15

2. GUI モードによる WebLogic Server のインストール

GUI モード インストールとは	2-2
始める前に	2-2

Windows システム上での GUI モード インストールの開始	2-3
UNIX システム上での GUI モード インストールの開始.....	2-4
filename.bin のインストーラによる GUI モード インストールの開始 ..2-4	
filename.zip のインストーラによる GUI モード インストールの開始 ..2-5	
GUI モード インストールの実行	2-6
WebLogic Server の Windows サービスについて	2-9
アカウントおよび環境情報	2-11
手動による Windows サービスのコンフィグレーション	2-11
Windows サービスのその他の情報.....	2-12
WebLogic Server の Windows ショートカットについて.....	2-12
次のステップ	2-15

3. UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール

コンソールモード インストールとは	3-2
始める前に	3-2
コンソールモード インストールの開始	3-3
filename.bin のインストーラによるコンソールモード インストールの開始	3-3
filename.zip のインストーラによるコンソールモード インストールの開始	3-4
コンソールモード インストールの実行	3-5
次のステップ	3-11

4. サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール

サイレント インストールとは.....	4-2
始める前に	4-2
サイレント インストール : 主な手順.....	4-3
テンプレート ファイルの作成.....	4-3
Windows システム上でのサイレント インストール プロセスの開始	4-7
UNIX システム上でのサイレント インストール プロセスの開始.....	4-8
filename.bin のインストーラによるサイレント インストール プロセスの開始	4-9
filename.zip のインストーラによるサイレント インストール プロセスの開始	4-10

Windows のテンプレート ファイル.....	4-11
UNIX のテンプレート ファイル.....	4-13
次のステップ	4-15

5. WebLogic Server ライセンスのインストール

WebLogic Server ライセンスについて	5-1
評価ライセンス	5-2
無期限のライセンス	5-2
WebLogic Server ライセンスの取得	5-2
license.bea ファイルの更新.....	5-3
Windows システムでの license.bea ファイルの更新	5-4
UNIX システムでの license.bea ファイルの更新	5-5
WebLogic Server 6.0 からのライセンスのアップグレード.....	5-6
6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのライセンスのアップ グレード	5-6
ライセンス・アップグレードに際してのご注意.....	5-7
WebLogicLicense.class ライセンスの変換	5-7
WebLogicLicense.XML ライセンスの変換	5-7

6. WebLogic Server でのサービス パックのインストールとアンインストール

サービス パックとは.....	6-2
WebLogic Server 6.1 の サービス パック	6-2
サービス パックの配布.....	6-2
サービス パックの内容.....	6-3
サービス パックのインストール プロセス	6-3
サービス パックのインストールの前提条件	6-4
アプリケーションと WebLogic Server の終了.....	6-5
サービス パック インストーラのダウンロード	6-5
環境の設定.....	6-5
サービス パックのインストール方法.....	6-7
サービス パックの GUI モード インストール.....	6-8
Windows システム上での GUI モード インストールの開始.....	6-8
UNIX システム上での GUI モード インストールの開始	6-9
GUI モード インストールの実行.....	6-9
サービス パックのコンソールモード インストール.....	6-10

コンソールモード インストールの開始	6-11
コンソールモード インストールの実行	6-12
サービス パックのサイレント インストール	6-14
サイレント インストールの使用 : 主な手順	6-14
テンプレート ファイルの作成	6-15
Windows システム上でのサービス パックのサイレント インストールの 開始	6-17
UNIX システム上でのサービス パックのサイレント インストールの開 始	6-18
サービス パックのアンインストール	6-18
サービス パックの再インストール	6-22
サービス パックによって置換または削除されたファイルの参照および回復 . 6-23	
console.war ファイルの操作	6-24

7. インストール後の作業の実行

WebLogic Server のディレクトリ構造について	7-2
インストールの確認	7-5
デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動	7-7
Windows システム上でのデフォルト サーバの起動	7-9
UNIX システム上でのデフォルト サーバの起動	7-11
Windows システム上でのサンプル サーバの起動	7-12
UNIX システム上でのサンプル サーバの起動	7-15
Windows システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起 動	7-16
UNIX システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動 . 7-19	
Administration Console の起動	7-20
デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止	7-21
デフォルト サーバの停止	7-22
サンプル サーバの停止	7-24
Pet Store サーバおよびアプリケーションの停止	7-26
WebLogic Server のアンインストール	7-28
WebLogic Server の再インストール	7-31
WebLogic Server の再インストール時のマシン名に関する注意事項 ..	7-32

索引



このマニュアルの内容

このマニュアルでは、BEA WebLogic Server™ ソフトウェアを Windows システムおよび UNIX システムにインストールする方法について説明します。

このマニュアルの内容は以下のとおりです。

- 第 1 章「WebLogic Server のインストール準備」では、WebLogic Server をインストールする前に知っておく必要がある基本的な情報について説明します。
- 第 2 章「GUI モードによる WebLogic Server のインストール」では、Java ベースの GUI を使用して Windows システムおよび UNIX システムに WebLogic Server をインストールする方法について説明します。
- 第 3 章「UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール」では、テキストベース インタフェースを使用して UNIX システムに WebLogic Server をインストールする方法について説明します。
- 第 4 章「サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール」では、インストール プロセスでテンプレート ファイルを使用して、ユーザの介入なしに WebLogic Server をインストールする方法について説明します。
- 第 5 章「WebLogic Server ライセンスのインストール」では、WebLogic Server ライセンス ファイルをインストールおよび更新する方法について説明します。
- 第 6 章「WebLogic Server でのサービス パックのインストールとアンインストール」では、WebLogic Server のインストールおよびアンインストールで利用できるものと同じ方法で、既にインストールされている WebLogic Server に、サービス パックをインストールおよびアンインストールする方法について示します。
- 第 7 章「インストール後の作業の実行」では、インストールの検証、デフォルトの管理サーバ、サンプル サーバ、および Pet Store サーバを起動および停止する方法、デフォルトの Administration Console を起動する方法、およ

び WebLogic Server ソフトウェアをアンインストールする方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは、WebLogic Server をインストールするシステム管理者またはアプリケーション開発者を対象としています。Web 技術、および Windows システムと UNIX システムの一般的な概念について読者が精通していることを前提として書かれています。

e-docs Web サイト

BEA 製品のドキュメントは、BEA の Web サイトで入手できます。BEA のホームページで [製品のドキュメント] をクリックします。

このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用すると、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 章ずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、Web サイトで入手できます。PDF を Adobe Acrobat Reader で開くと、マニュアルの全体（または一部分）を書籍の形式で印刷できます。PDF を表示するには、WebLogic Server ドキュメントのホームページを開き、[ドキュメントのダウンロード] をクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader は Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) で無料で入手できます。

関連情報

BEA の Web サイトでは、WebLogic Server の全マニュアルを提供しています。WebLogic Server ソフトウェアをインストールするときに参考となる WebLogic Server の他のマニュアルは、次のとおりです。

- 『BEA WebLogic Server の紹介』
- 『管理者ガイド』
- 『WebLogic XML プログラミング ガイド』
- 『WebLogic jDriver for Oracle のインストールと使い方』

『BEA WebLogic Server の紹介』には、BEA WebLogic Express™ ソフトウェアについての説明も含まれています。WebLogic Express は、プレゼンテーション サービス、および WebLogic Server からのデータ ベース アクセス サービスを備えています。

サポート情報

BEA のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。質問や意見などがあれば、docsupport-jp@bea.com 宛に電子メールでお寄せください。寄せられた意見については、ドキュメントを作成および改訂する BEA の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、ご使用のソフトウェア名とバージョン名、およびマニュアルのタイトルと作成日付をお書き添えください。本バージョンの BEA WebLogic Server について不明な点がある場合、または BEA WebLogic Server のインストールおよび動作に問題がある場合は、BEA WebSUPPORT (<http://www.bea.com>) を通じて BEA カスタマ サポートまでお問い合わせください。カスタマ サポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマ サポート カードにも記載されています。

カスタマ サポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メール アドレス、電話番号、ファクス番号

-
- 会社の名前と住所
 - お使いの機種とコード番号
 - 製品の名前とバージョン
 - 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	適用
{ Ctrl } + { Tab }	同時に押すキーを示す。
<i>斜体</i>	強調または本のタイトルを示す。
等幅テキスト	コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造体とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、およびファイル名とその拡張子を示す。等幅テキストはキーボードから入力するテキストも示す。 例： <pre>import java.util.Enumeration; chmod u+w * config/examples/applications .java config.xml float</pre>
<i>斜体の等幅テキスト</i>	コード内の変数を示す。 例： <pre>String CustomerName;</pre>

表記法	適用
すべて大文字のテキスト	デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。 例： LPT1 BEA_HOME OR
{ }	構文内の複数の選択肢を示す。
[]	構文内の任意指定の項目を示す。 例： <pre>java utils.MulticastTest -n name -a address [-p portnumber] [-t timeout] [-s send]</pre>
	構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。 例： <pre>java weblogic.deploy [list deploy undeploy update] password {application} {source}</pre>
...	コマンドラインで以下のいずれかを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 引数を複数回繰り返すことができる。 ■ 任意指定の引数が省略されている。 ■ パラメータや値などの情報を追加入力できる。
.	コード サンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。
.	
.	



1 WebLogic Server のインストール 準備

BEA WebLogic Server™ ソフトウェアをインストールする前に、以下の内容に目を通してください。

- BEA インストール プログラム
- WebLogic Server の配布方法
- WebLogic Server ソフトウェアのコンポーネント
- システム要件
- 一時的ストレージ領域の要件
- ソフトウェア要件
- BEA ホーム ディレクトリ
- 128 ビット暗号化の有効化
- 6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのアップグレード
- インストールのロード マップ

BEA インストール プログラム

BEA インストール プログラムは、WebLogic Server 製品およびサービス パックをインストールするための BEA の標準ツールです。BEA インストール プログラムを使用すると、WebLogic Server ソフトウェアを対象 Windows システムまたは UNIX システム（マシン）にインストールできます。BEA インストール プログラム自体は、WebLogic Server インストーラ ファイルに入っています。

WebLogic Express のサポート

BEA インストール プログラムは、BEA WebLogic Express™ ソリューションをインストールする場合にも使用できます。BEA WebLogic Express とは、BEA が提供している簡単な Web アプリケーションのことです。WebLogic Express の詳細については、『[BEA WebLogic Server の紹介](#)』を参照してください。

インストール方法

BEA インストール プログラムでは、3 つのインストール方法を利用できます。

- グラフィカル ユーザ インタフェース（GUI）モード インストール - [第 2 章「GUI モードによる WebLogic Server のインストール」](#)を参照してください。
- コンソールモード インストール（UNIX のみ） - [第 3 章「UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール」](#)を参照してください。
- サイレント インストール - [第 4 章「サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール」](#)を参照してください。

サービス パック アップグレードをインストールするには、[第 6 章「WebLogic Server でのサービス パックのインストールとアンインストール」](#)を参照してください。

WebLogic Server の配布方法

WebLogic Server は、Web と CD-ROM の 2 つの方法で配布されます。WebLogic Server のサービス パックは、Web 上でのみ配布されます。

WebLogic Server の Web 上での配布

WebLogic Server 6.1 の評価版は、BEA の Web サイト (<http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html>) からダウンロードできます。ダウンロードした WebLogic Server には、最大で 3 つの IP アドレスからのクライアント接続によるアクセスをサポートする 30 日間の評価ライセンスが組み込まれています。30 日間の試用期間を経過してご使用を継続するには、WebLogic Server 製品の開発またはプロダクション ライセンスを購入してください。

WebLogic Server はインストーラ ファイルとして配布され、この中に BEA インストール プログラムが入っています。プラットフォーム固有の WebLogic Server インストーラは、BEA の Web サイトからダウンロードできます。

WebLogic Server の CD-ROM での配布

WebLogic Server を販売代理店からお買い求めになった場合は、WebLogic Server 製品パッケージに以下のものが入っています。

- CD-ROM 2 枚
 - BEA WebLogic Server 製品ソフトウェア CD
 - BEA WebLogic Server オンライン ドキュメント CD
- 以下の印刷マニュアル
 - 『インストール ガイド』(このマニュアル)
 - 『BEA WebLogic Server の紹介』
 - 『BEA WebLogic Server リリース ノート』

- 「BEA Software License and Limited Warranty」パンフレット
- 「Customer Support Quick Reference and Other Important Information」カード

この他に、<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html> で WebLogic Server のオンライン ドキュメントにアクセスできます。

サービス パックの Web 上での配布

WebLogic Server 6.1 の最新版には、

http://commerce.bea.com/downloads/weblogic_server.jsp でダウンロードできるサービス パックが組み込まれます。WebLogic Server をインストールしていない場合、またはインストールしている WebLogic Server が 5.1 以前の場合、このバージョンをインストールする必要があります。

サービス パックなし、または 6.1 以前のサービス パックで WebLogic Server 6.1 を既にインストールしており、それに加えて BEA WebSUPPORT アカウントがある場合、WebLogic Server 6.1 全体をダウンロードしなくても、<http://websupport.beasys.com/custsupp> でサービス パックをダウンロードできます。ユーザのサイトでインストールされるサービス パックはインストーラ ファイルとして配布され、この中に BEA インストール プログラムが入っています。

BEA WebSUPPORT アカウントがない場合は、

<http://support.bea.com/Registration?formAction=register> で取得してください。

WebLogic Server ソフトウェアのコンポーネント

WebLogic Server は、主に 2 つのコンポーネントから構成されます。

- プログラム ファイル
- サンプル ファイル

プログラム ファイルには、WebLogic Server デフォルト サーバ (別名、管理サーバ) および WebLogic Server のコア Java™ 2, Enterprise Edition (J2EE) 機能が含まれています。サンプル ファイルには、WebLogic Server サンプル サーバ、Pet Store サーバ、サンプル アプリケーションが含まれており、WebLogic Server を使用したさまざまな J2EE 機能が例示されます。各サンプル アプリケーションを構築、コンフィグレーション、実行するためにリソースが用意されています。

注意： インストール時に、プログラム ファイルおよびサンプル ファイルの両方をインストールするか ([標準インストール] を選択)、プログラム ファイルのみをインストールするか ([Server Only] を選択) を決定するよう要求されます。

さらに、セキュア ソケット レイヤ (SSL : Secure Sockets Layer) 暗号化ソフトウェアが、56 ビットおよび 128 ビットの 2 つのレベルで使用可能です。SSL の 128 ビット クライアント バージョンのライセンスは、アメリカまたはカナダで有効です。適切な認証があれば、アメリカおよびカナダ以外でも 128 ビット暗号化で有効なライセンスを取得できます。WebLogic Server ソフトウェア ライセンスの取得およびインストールの詳細については、[第 5 章「WebLogic Server ライセンスのインストール」](#)、および [1-13 ページの「128 ビット暗号化の有効化」](#)を参照してください。

システム要件

WebLogic Server のシステム要件について次の表で説明します。

コンポーネント	要件
プラットフォーム	<p>動作保証された WebLogic Server プラットフォーム。 http://edocs.beasys.co.jp/weblogic/docs/platforms/index.html の「プラットフォーム サポート」ページを参照。このページには、推奨される Java 実行時環境のバージョンに加えて、オペレーティングシステムのパッチ、カーネル コンフィグレーション値、パフォーマンス パックなどの必要に応じた前提条件または推奨が記載されている。</p> <p>パフォーマンス パックの詳細については、『パフォーマンス チューニング ガイド』の「WebLogic Server パフォーマンス パックの使い方」を参照。</p>
ハード ディスク ドライブ	<p>WebLogic Server 6.1 を Windows システムにインストールする場合 - 約 171 MB* の空きストレージ領域。</p> <p>WebLogic Server 6.1 を UNIX システムにインストールする場合 - 約 210 MB* の空きストレージ領域。</p> <p>サービス パックを Windows または UNIX システムにインストールする場合 - WebLogic Server 6.1 で使用可能なサービス パック、およびそのサービス パックのインストール プログラムに必要な空きストレージ領域と一時的ストレージ領域を『リリース ノート』で確認。</p>
メモリ	Windows または UNIX システムの場合、128 MB 以上の RAM。
カラー ビット深度 ディスプレイ	<p>グラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) モードでインストールする場合、8 ビット色深度 (256 色)。</p> <p>コンソールモードおよびサイレントモードでインストールする場合、カラー ビット深度の要件はなし。</p>

* インストール プログラムに必要な一時的ストレージ領域 76 MB を含む。

一時的ストレージ領域の要件

BEA インストール プログラムは一時ディレクトリを使用して、WebLogic Server を対象システム上にインストールするために必要なファイルを抽出します。インストール プロセスでは、インストーラに付属の圧縮済み JDK (Java Development Kit) と、一時ディレクトリに展開される解凍済み JDK のコピーを格納するために十分な空き容量が一時ディレクトリに必要です。抽出されたファイルは、インストール プロセスの最後に一時ディレクトリから削除されます。

必要な一時的ストレージ領域のサイズは、対象のシステムと WebLogic Server 6.1 インストーラによって異なります。WebLogic Server 6.1 の完全インストールには、最低 76 MB が必要です。

デフォルトでは、インストール プログラムは以下の表の一時ディレクトリを使用します。

プラットフォーム	ディレクトリ
Windows	TMP システム変数が参照するディレクトリ
UNIX	/tmp

一時ディレクトリが適切な空き容量を必ず持つようにするために、以下のように、インストール用の一時ディレクトリとして代替ディレクトリを割り当てることもできます。

プラットフォーム	手順
Windows	TMP システム変数を一時ディレクトリとして使用するディレクトリに設定する。
UNIX	シェル プロンプトで次のコマンドを入力する。 <code>export IATEMPDIR=tmpdirname</code> <i>tmpdirname</i> と一時ディレクトリとして使用するディレクトリ名を置き換える。

ソフトウェア要件

WebLogic Server 6.1 には、以下のソフトウェアが必要です。

- JDK 1.3 - JDK (Java Development Kit) は Java の実行時環境 (Java 仮想マシン : JVM) と、Java アプリケーションのコンパイルおよびデバッグ用ツールを提供します。JDK 1.3.1 は、WebLogic Server 6.1 ソフトウェアに付属しており、システム上にデフォルトでインストールされます。
- Microsoft Internet Explorer 5.x または Netscape 4.7x - Administration Console をサポートするブラウザソフトウェア。Administration Console は、WebLogic Server に対する Web ベースの管理者クライアントインタフェースです。
- 各種のプラットフォームおよびオペレーティングシステムに合わせて、その他のソフトウェアも必要です。BEA では、WebLogic Server が動作するプラットフォームおよびオペレーティングシステムのソフトウェア要件のリストを随時更新しています。使用しているプラットフォームとオペレーティングシステムの最新情報については、「プラットフォーム サポート」ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/weblogic/docs/platforms/index.html>) を参照してください。

BEA ホーム ディレクトリ

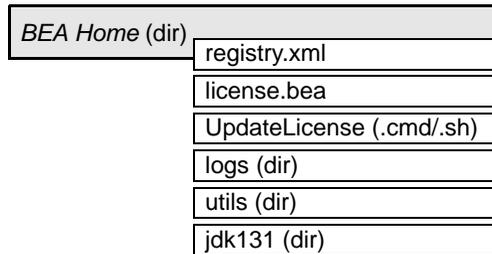
WebLogic Server をインストールする際に、BEA ホーム ディレクトリを指定するよう要求されます。BEA ホーム ディレクトリとは共通ファイル用のリポジトリのことで、同じマシンにインストールされる複数の BEA 製品が使用します。この理由により、BEA ホーム ディレクトリを、システム上にインストールされた製品の「中央サポート ディレクトリ」とみなすことができます。

BEA ホーム ディレクトリ内のファイルは、BEA ソフトウェアがシステム上で正しく動作するために不可欠です。これらのファイルは、以下の機能を実行します。

- インストール済み BEA 製品のライセンスが正しく機能するようにする
- インストール時に製品間の依存関係のチェックを容易にする

■ サービスパックのインストールを容易にする

WebLogic Server インストール プログラムによって作成されるサンプル BEA ホーム ディレクトリの構造を以下に示します。



注意： インストール プログラムは、ユーザのホーム ディレクトリ (UNIX では \$HOME/bea、Windows では C:\bea) に bea フォルダも作成し、そのディレクトリに beahomelist ファイルを作成します。このファイルは、追加の BEA ソフトウェアをインストールするとき、および WebLogic Server への更新をインストールするとき、インストール プログラムが内部的に使用します。このファイルまたはディレクトリを、編集または削除しないでください。

BEA ホーム ディレクトリの選択

WebLogic Server のインストール時に、既存の BEA ホーム ディレクトリを選択するか、または新しい BEA ホーム ディレクトリのパスを入力するよう指示されます。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストール プログラムは、自動的にディレクトリを作成します。

次に、WebLogic Server のインストール先となる BEA 製品ディレクトリを選択します。BEA ホーム ディレクトリの下に BEA 製品ディレクトリを作成することもできますが、作成は必須ではありません。

注意： BEA ホーム ディレクトリに対しては、BEA ホーム ディレクトリ規約を使用する BEA 製品の各タイプおよびバージョンで 1 つのインスタンスのみのインストールが可能です。たとえば、BEA ホーム ディレクトリにイ

インストールできる WebLogic Server 6.1 のインスタンスは 1 つだけですが、WebLogic Server 6.0 のインスタンスを BEA ホーム ディレクトリに含めることもできます。

BEA ホーム ディレクトリの機能について

以下の表で、BEA ホーム ディレクトリのファイルおよびディレクトリについて説明します。

コンポーネント	説明
registry.xml ファイル	対象システム上にインストールされている BEA 製品の永続的レコードが入った Extensible Markup Language (XML) レジストリ ファイル。このレジストリには、バージョン レベル、サービス パック レベル、およびインストール ディレクトリなどの製品関連の情報が格納されている。 注意： このファイルは編集しないこと。ファイルを編集すると、現在インストールされている BEA 製品で操作に関する問題が発生したり、将来の BEA 製品のインストールまたはメンテナンス アップグレードでインストールに関する問題が発生することがある。

コンポーネント	説明
license.bea ファイル	<p>システム上にインストールされ、BEA ホーム ディレクトリ規約を使用する BEA WebLogic 製品のライセンスキーが入った XML 形式のライセンス ファイル。</p> <p>BEA ホーム ディレクトリ規約を使用する WebLogic 製品を初めてインストールするときに、インストールプログラムは、インストール時に指定した BEA ホーム ディレクトリに license.bea ファイルをインストールする。その後、配布キットの一部としてライセンスファイル（評価ライセンスなど）を含む WebLogic 製品をインストールすると、インストールプログラムは、license.bea ファイルを自動的に更新する。無期限（永続的）ライセンスを追加したり、追加機能用にライセンス ファイルを更新したりするには、UpdateLicense ユーティリティを使って license.bea ファイルを更新する必要がある。</p> <p>注意： このファイルは編集しないこと。ファイルを編集すると、現在インストールされている BEA 製品で操作に関する問題が発生したり、将来の BEA 製品のインストールまたはメンテナンス アップグレードでインストールに関する問題が発生することがある。</p>
UpdateLicense (.cmd/.sh)	<p>新しいライセンス セクションを使って現在の license.bea ファイルを更新するコマンド ファイル（Windows NT/2000）またはシェル スクリプト（UNIX）。実行すると、既存のライセンス セクションに新しいライセンス セクションが結合される。</p> <p>UpdateLicense ユーティリティの使い方の詳細については、5-4 ページの「Windows システムでの license.bea ファイルの更新」を参照。</p>
logs ディレクトリ	<p>BEA ホームの場所ファイルと、BEA ホーム ディレクトリのインストールおよびアンインストールの履歴 ファイルを格納するディレクトリ。これらのファイルの詳細については、2-12 ページの「WebLogic Server の Windows ショートカットについて」を参照。</p>

コンポーネント	説明
utils ディレクトリ	すべての BEA WebLogic Server 製品のインストールをサポートするユーティリティが入ったディレクトリ。utils.jar ファイルには、UpdateLicense ユーティリティをサポートするコードが格納されている。
jdk131 ディレクトリ	バージョン 1.3.1 の Java Development Kit が入ったディレクトリ。JDK 1.3.1 は Java の実行時環境 (Java 仮想マシン: JVM) と、Java アプリケーションのコンパイラおよびデバッグ用ツールを提供する。このバージョンの JDK は、WebLogic Server 配布キットに含まれている。WebLogic Server をインストールすると、BEA ホーム ディレクトリに自動的にインストールされる。

複数の BEA ホーム ディレクトリの作成

複数の BEA ホーム ディレクトリを作成することはできますが、できる限り避けてください。ほとんどすべての場合で、BEA ホーム ディレクトリは1つで十分です。ただし、開発環境とプロダクション環境を分けておくために、それぞれに製品スタックを入れた方がよい場合もあります。ディレクトリを2つ作成しておけば、開発環境を (BEA ホーム ディレクトリ内で) 更新しても、準備が整うまでプロダクション環境を変更せずに済みます。

128 ビット暗号化の有効化

WebLogic Server のライセンスには、56 ビット暗号化がデフォルトで付属しています。SSL で 128 ビット暗号化を有効にするには、WebLogic Server ソフトウェアをインストールする前に、`license.bea` ファイルで 128 ビット暗号化を指定する必要があります。つまり、インストール プログラムは、WebLogic Server ソフトウェアのインストールで 128 ビット暗号化を有効にする前に、`license.bea` ファイルで 128 ビット暗号化を見つける必要があります。

128 ビット暗号化用の WebLogic Server のインストールでまったく新しい BEA ホーム ディレクトリを作成する場合は、次の手順を実行します。

1. WebLogic Server の 128 ビット暗号化ライセンスを取得します。
詳細については、「日本 BEA システムズ 営業グループ」
(<http://www.beasys.co.jp/about/contact.html>) までお問い合わせください。
2. BEA ホーム ディレクトリとして使用する新しいディレクトリを作成し、ライセンスを新しいディレクトリに配置します。ライセンス ファイルの名前は `license.bea` でなければなりません。
3. WebLogic Server ソフトウェアをインストールします。

手順については、第 2 章「GUI モードによる WebLogic Server のインストール」、第 3 章「UNIX システム上でのコンソールモードインストールによる WebLogic Server のインストール」、または第 4 章「サイレントインストールによる WebLogic Server のインストール」を参照してください。

`license.bea` ファイルに WebLogic Server ライセンスがなかった場合、または `license.bea` ファイルに WebLogic Server に対する 56 ビット暗号化ライセンスがあった場合、インストーラは、WebLogic Server のインストールに 56 ビット SSL プラグインを含めます。`license.bea` ファイルに WebLogic Server の 128 ビット暗号化ライセンスがあった場合、インストーラは、WebLogic Server のインストールに 56 ビットおよび 128 ビットの両方の SSL プラグインを含めます。

WebLogic Server SSL プラグインの詳細については、『管理者ガイド』の「[Apache HTTP Server プラグインのインストールとコンフィグレーション](#)」、[「Microsoft Internet Information Server プラグイン \(ISAPI\) のインストールとコンフィグレーション](#)」、および「[Netscape Enterprise Server プラグイン \(NSAPI\) のインストールとコンフィグレーション](#)」を参照してください。

6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのアップグレード

6.0 より前のバージョン (5.1 以前) の WebLogic Server からアップグレードする場合は、新しいバージョンをインストールする前に以下の注意事項を考慮する必要があります。

1. 現在のライセンス ファイルを安全な場所に保存します。6.0 より前のバージョンの WebLogic Server で使用されていた Java 形式のライセンス ファイル (`WebLogicLicense.class`) および XML 形式のライセンス ファイル (`WebLogicLicense.XML`) は、現在はサポートされていません。これらのライセンス ファイルを `license.bea` ファイルにアップグレードする必要があります。ライセンス ファイルのアップグレードの詳細については、[5-6 ページの「6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのライセンスのアップグレード」](#)を参照してください。
2. `weblogic.properties` ファイルを安全な場所に保存します。WebLogic Server 6.0 では、`weblogic.properties` ファイルはサポートされなくなりました。コンフィグレーション属性は、ドメインごとに永続的 XML ファイル (`config.xml`) に保存されます (ドメインとは、WebLogic Server インストールの管理単位を表します)。WebLogic Server 6.0 をインストールしたら、Administration Console を使用して、`weblogic.properties` ファイルをドメインのコンフィグレーション ファイル (`config.xml`) に変換する必要があります。[weblogic.properties](#) ファイルを変換する手順については、[Administration Console のヘルプ](#)を参照してください。
3. ユーザが記述したコードやコンパイルしたクラスがあれば、安全な場所に保存します。
4. ユーザのアプリケーションと環境を保存するために、WebLogic 配布キット全体を安全な場所にコピーするか、または前のインストールをバック アップします。

インストールのロード マップ

これでインストールを開始する準備が整いました。WebLogic Server をインストールするには、以下を参照してください。

- [第 2 章「GUI モードによる WebLogic Server のインストール」](#)
- [第 3 章「UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール」](#)
- [第 4 章「サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール」](#)

サービス パックをインストールするには、[第 6 章「WebLogic Server でのサービス パックのインストールとアンインストール」](#)を参照してください。

2 GUI モードによる WebLogic Server のインストール

以下の節では、Windows および UNIX システムでグラフィカル ユーザ インタフェース (GUI) モードを使用して WebLogic Server をインストールする方法について説明します。

- GUI モード インストールとは
- 始める前に
- Windows システム上での GUI モード インストールの開始
- UNIX システム上での GUI モード インストールの開始
- GUI モード インストールの実行
- WebLogic Server の Windows サービスについて
- WebLogic Server の Windows ショートカットについて
- 次のステップ

GUI モード インストールとは

GUI モード インストールとは、グラフィックベースで BEA インストール プログラムを実行する方法のことです。GUI モード インストールは、Windows システムでも UNIX システムでも実行できます。

GUI モード インストールを実行するには、ソフトウェアのインストール先のマシンに付属しているコンソールが Java ベースの GUI をサポートしている必要があります。Windows システムのコンソールはすべて Java ベース GUI をサポートしていますが、UNIX システムの場合は一部のコンソールがサポートしていません。

注意： UNIX システム上で非グラフィック コンソールを使って WebLogic Server をインストールするには、3-1 ページの「UNIX システム上でのコンソールモード インストールによる WebLogic Server のインストール」を参照してください。

以下の節では、GUI モード インストールによる WebLogic Server 基本製品のインストールについて説明します。基本製品とは WebLogic Server の完全インストールのことで、Java Development Kit (JDK) のインストールも含まれます。WebLogic Server 基本製品には、サービス パックが含まれていてもいなくてもかまいません。

始める前に

WebLogic Server バージョン 6.1 の時点では、WebLogic Server 6.0 または 6.1 に WebLogic Server を上書きインストールすることはできません。7-28 ページの「WebLogic Server のアンインストール」で説明しているように、まず WebLogic Server をアンインストールする必要があります。

Windows システム上での GUI モード インストールの開始

Windows システム上で GUI モード インストールを開始するには、次の手順を実行します。

1. Windows システムにログインします。

WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールするには、Administrator 権限を持っている必要があります。WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールする場合の詳細については、2-9 ページの「WebLogic Server の Windows サービスについて」を参照してください。
2. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。
 - b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、*filename.exe* ファイル (*filename* は WebLogic Server インストーラの名前) をダブルクリックします。
3. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合
 - a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. インストール スクリプトが自動的に起動しない場合は、Windows エクスプローラを開いて、CD-ROM アイコンをダブルクリックします。
 - c. *install.exe* をダブルクリックします。インストール プログラムが WebLogic Server のインストールを開始します。
4. 2-6 ページの「GUI モード インストールの実行」に進みます。

UNIX システム上での GUI モード インストールの開始

UNIX プラットフォーム用 WebLogic Server 6.1 インストーラは、以下のいずれかの形をとります。

- JDK 1.3.1 に付属のシェル スクリプトにラップされた Java インストーラ（ファイル名の末尾は `.bin`）
- JDK がない pure Java インストーラ（ファイル名の末尾は `.zip`）

この節では、両方のタイプのインストーラによるインストール手順を説明します。

filename.bin のインストーラによる GUI モード インストールの開始

`filename.bin` インストーラによる GUI モード インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。
 - b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始します。

```
sh filename.bin
```

このコマンドでは、`filename` は WebLogic Server インストーラの名前を表します。

注意: インストーラを起動するディレクトリには、書き込みパーミッションが設定されている必要があります。

4. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合
 - a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
 - c. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
sh filename.bin
```

このコマンドでは、*filename* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表します。
5. 2-6 ページの「GUI モード インストールの実行」に進みます。

filename.zip のインストーラによる GUI モード インストールの開始

filename.zip インストーラによる GUI モード インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. JDK 1.3 (またはそれ以降のバージョン) の `bin` ディレクトリを、対象システム上の `PATH` 変数設定の先頭に含めます。次に例を示します。

```
PATH=full_path_to_jdk131/bin:$PATH
export PATH
```

full_path_to_jdk131 を JDK 1.3.1 ディレクトリの完全パス名に置き換えます。

4. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。

- b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install
```

このコマンドでは、*filename* は WebLogic Server インストーラの名前を表します。

5. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合

- a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
- b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
- c. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install
```

このコマンドでは、*filename* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表します。

注意： インストーラを起動するディレクトリには、書き込みパーミッションが設定されている必要があります。

6. 2-6 ページの「GUI モード インストールの実行」に進みます。

GUI モード インストールの実行

インストール プログラムでは、使用しているシステムとコンフィグレーションに関する具体的な情報を入力する必要があります。インストール中に要求される情報の指定方法については、以下の表を参照してください。

ウィンドウ	実行するアクション
BEA ログ	インストール時のテキストを表示する言語を選択する。
[はじめに]	[次へ] ボタンをクリックして、インストールを続行する。 [終了] をクリックすると、インストールをいつでもキャンセルできる。

ウィンドウ	実行するアクション
[ライセンス契約]	BEA ソフトウェア使用許諾契約を読み、[はい]をクリックして、契約書の条件に同意することを示す。デフォルトでは[いいえ]が選択されている。インストールを続行するには、使用許諾契約に同意し、[次へ]をクリックする。
[インストール セットの選択]	システム上にインストールするソフトウェアを選択する。デフォルトでは、プログラム ファイルとサンプル ファイルをインストールする [標準インストール] が選択されている。そのままでは、[次へ]をクリックする。プログラム ファイルのみをインストールする場合は、[Server Only] を選択し、[次へ]をクリックする。プログラム ファイルおよびサンプル ファイルの基本的な説明については、1-4 ページの「WebLogic Server ソフトウェアのコンポーネント」を参照。
[BEA ホーム ディレクトリを選択します]	対象システム上にインストールされた BEA 製品の中央サポート ディレクトリとして機能する BEA ホーム ディレクトリを指定する。システム上に BEA ホーム ディレクトリがすでに存在する場合は、そのディレクトリを選択するか (推奨) または新規の BEA ホーム ディレクトリを作成する。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストール プログラムは、自動的にディレクトリを作成する。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-8 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照。
[製品のディレクトリを選択します]	WebLogic Server ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定する。デフォルトの製品ディレクトリ (wlserver6.1) を選択するか、新しい製品ディレクトリを作成する。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストール プログラムは、自動的にディレクトリを作成する。

ウィンドウ	実行するアクション
[デフォルト サーバ コンフィグレーション]	<p data-bbox="637 256 1241 315">WebLogic Server デフォルト サーバの任意のコンフィグレーションを指定する。</p> <ul data-bbox="637 337 1264 984" style="list-style-type: none"><li data-bbox="637 337 1264 570">■ 管理ドメイン名を [WebLogic 管理ドメイン名] テキストボックスに入力する。デフォルトは <code>mydomain</code>。 ドメインとは、WebLogic Server インストールの管理単位を表す。WebLogic のドメインは、1 つまたは複数の WebLogic Server で構成される。WebLogic ドメインの詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server 管理の概要」を参照。<li data-bbox="637 592 1264 651">■ サーバ名を [サーバ名] テキストボックスに入力する。デフォルトは <code>myserver</code>。<li data-bbox="637 673 1264 797">■ 専用の TCP/IP ポート番号を [リスン ポート] テキストボックスに入力する。デフォルトサーバが接続をリスンするポートをこの番号で指定する。デフォルトは 7001。<li data-bbox="637 820 1264 984">■ 専用のリスン ポート番号を [セキュア (SSL) リスン ポート] テキストボックスに入力する。セキュア リスン ポートは、セキュア ソケット レイヤ (SSL) プロトコルに基づくセキュア Web 接続で使用される。デフォルトは 7002。
[WebLogic Server サービスのインストール] (Windows システムのみ)	<p data-bbox="637 1016 1264 1235">Windows システム上のサービスとして WebLogic Server をインストールする場合は、[はい] をクリックする。[はい] をクリックした場合、Windows システムを起動するたびに、デフォルトサーバがサービスとして起動する。デフォルトは [いいえ]。デフォルトを受け付けた場合、WebLogic Server はサービスとしてインストールされない。</p> <p data-bbox="637 1252 1264 1341">WebLogic Server をサービスとしてインストールする場合の詳細については、2-9 ページの「WebLogic Server の Windows サービスについて」を参照。</p>

ウィンドウ	実行するアクション
[システム パスワードを作成します]	8 文字以上 20 文字以下のパスワードを入力する。 WebLogic Server デフォルト サーバとサンプル サーバ、および Pet Store サーバを起動する場合にこのパスワードを要求される。Web ブラウザから WebLogic Server Administration Console にアクセスする際には、ユーザ名 <code>system</code> とこのパスワードが要求される。インストール プログラムは、インストール時に <code>system</code> アカウント（ここで指定したパスワードを持つユーザ名 <code>system</code> ）を作成する。
[インストールしています ...]	このウィンドウではユーザ入力は不要。インストール プログラムは、ユーザが指定した製品ディレクトリに WebLogic Server をインストールしている。 注意： インストールのプログレス バーが、特に最後の段階で、長時間停止しても問題はない。プログレス バーが停止してもインストール処理は続行されている。
[インストール完了]	[完了] をクリックして、インストール プログラムを終了する。

以上で、BEA WebLogic Server ソフトウェアのインストールが完了しました。

WebLogic Server の Windows サービスについて

WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールするには、Administrator 権限を持っている必要があります。

2 GUI モードによる WebLogic Server のインストール

WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールする場合、インストール プログラムは、インストール時に指定したデフォルト サーバ コンフィグレーションに対してコマンド スクリプト ファイル `installNtService.cmd` を使用し、そのスクリプトを実行して WebLogic Server サービスを作成します。次に、`installNtService.cmd` スクリプトのコマンド ラインの構造を示します。

コード リスト 2-1 `installNtService.cmd` スクリプト — 例

```
@echo off
SETLOCAL
cd C:\bea\wlserver6.1\config\mydomain

rem *** Set Classpath to load Weblogic Classes
set CLASSPATH=.;C:\bea\wlserver6.1\lib\weblogic_sp.jar;
    C:\bea\wlserver6.1\lib\weblogic.jar

rem *** Set Command Line for service to execute
rem *** %JAVA_HOME%\java will automatically be prepended.
set CMDLINE="-ms64m -mx604m -classpath \"%CLASSPATH%\"
    -Dweblogic.Domain=mydomain -Dweblogic.Name=myserver
    -Djava.security.policy=\"%C:\bea\wlserver6.1\lib/
    weblogic.policy\" -Dbea.home=\"%C:\bea\" weblogic.Server"

rem *** Install the service
"C:\bea\wlserver6.1\bin\beasvc" -install -svcname:myserver
    -javahome:"C:\bea\jdk131"
    -execdir:"C:\bea\wlserver6.1"
    -extrapath:"C:\bea\wlserver6.1\bin" -cmdline:%CMDLINE%

ENDLOCAL
```

`installNtService.cmd` スクリプトを実行すると、Windows レジストリにサービスのエントリ（デフォルトでは `myserver`）が作成されるので、Windows システムは、起動のたびにサービスの開始を認識できます。UNIX システムによるデーモン プロセスの起動および実行と同じように、Windows システムは、バックグラウンドで実行されるプロセスとして WebLogic Server デフォルトサーバを起動します。

アカウントおよび環境情報

WebLogic Server サービスは、LocalSystem アカウントおよび Windows System 環境プロファイル下で動作します。[スタート | 設定 | コントロール パネル | システム | 環境] を選択し、[システム環境変数] スクロール ボックスを参照すると、System 環境のプロファイルを確認できます。

手動による Windows サービスのコンフィグレーション

WebLogic Server サービスを手動で作成または再コンフィグレーションするには、installNtService.cmd スクリプトを編集してからスクリプトを実行します。このスクリプトは、uninstallNtService.cmd スクリプトとともに、`wls_6.1_prod_dir\config\domain_name` ディレクトリにあります。このパス名で、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、`domain_name` はインストール時に指定したデフォルトサーバのドメイン名 (デフォルトでは `mydomain`) を表します。

installNtService.cmd スクリプトおよび uninstallNtService.cmd スクリプトを実行するには、Administrator 権限を持っている必要があります。

Windows System 環境では通常、PATH に Java コンパイラ (`javac.exe`) がないので、installNtService.cmd スクリプトの `beasvc` コマンドの `extrapath` オプションを追加すると、スクリプトを実行できます。たとえば、次の `extrapath` オプションの定義では、追加されたパス (太字で表示) に Windows System 環境の Java コンパイラがあります。

```
-extrapath: "C:\bea\wlserver6.1\bin;C:\bea\jdk131\bin"  
-cmdline: %CMDLINE%
```

WebLogic Server は、Java コンパイラにアクセスし、起動時に JavaServer Page (JSP) をコンパイルできるようにする必要があります。Java コンパイラにアクセスできない場合、WebLogic Server の JSP はコンパイルされません。

注意: `beasvc` コマンドおよびそのオプションの詳細については、`beasvc` コマンドが格納されているディレクトリに移動し、「`beasvc -help`」と入力してください。

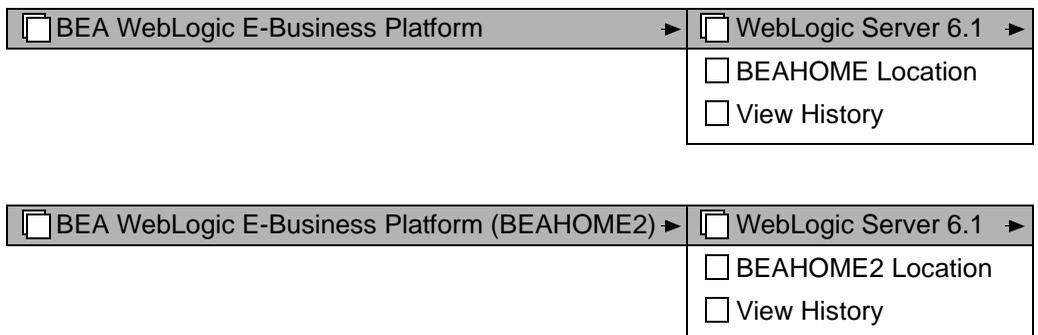
Windows サービスのその他の情報

WebLogic Server サービスは、インストール時に指定したシステム パスワードを WebLogic Server の起動時に使用します。後でパスワードを変更する場合は、`uninstallNtService.cmd` を使ってサービスをアンインストールし、`-password` 引数が含まれるように `installNtService.cmd` ファイルを変更し、変更した `installNtService.cmd` ファイルを実行する必要があります。`installNtService.cmd` ファイルの変更の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

WebLogic Server の Windows ショートカットについて

Windows システムに WebLogic Server をインストールする場合、WebLogic Server の親フォルダとして自動的に [BEA WebLogic E-Business Platform] を使用します。他の BEA ホーム ディレクトリがシステムに追加されると、インストール プログラムは、次の図に示す規約に従って、新しい [BEA WebLogic E-Business Platform] を作成します。

図 2-1 同一システム上の複数の BEA ホーム ディレクトリのトラッキング



各 BEA ホーム ディレクトリには、関連する [BEA WebLogic E-Business Platform] フォルダがあります。各 [BEA WebLogic E-Business Platform] フォルダには、1 つまたは複数の BEA 製品フォルダ（注意を参照） および BEAHOMEx Location および View History の 2 つのファイルがあります。BEAHOME には 2 から順に番号が関連付けられ、Windows システム上に BEA ホーム ディレクトリを 1 つしか作成しない場合には番号は付けられません。

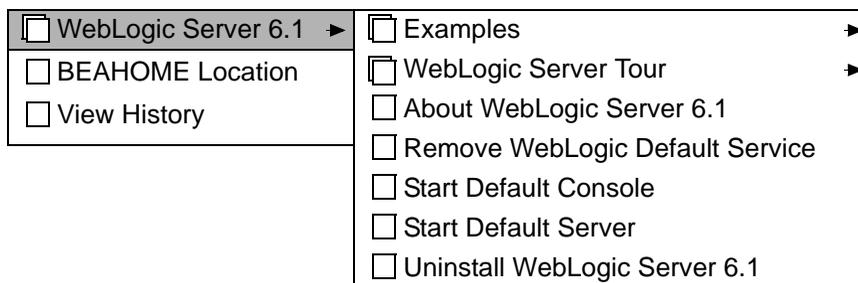
注意： BEA ホーム ディレクトリは、WebLogic Server、WebLogic Collaborate、および BEA Tuxedo を含む複数の BEA 製品のホーム ディレクトリになることがあるので、[BEA WebLogic E-Business Platform] フォルダには、複数の BEA 製品フォルダが含まれている可能性があります。

各 BEA ホーム ディレクトリと [BEA WebLogic E-Business Platform] フォルダに対応して、BEAHOME ファイルには BEA ホーム ディレクトリのパス名が格納され、View History ファイルには BEA ホーム ディレクトリに関するインストールおよびアンインストールの履歴が格納されます。ファイルに関連付けられたテキスト アイコンをダブルクリックすると、その内容が表示されます。

BEAHOME および履歴ファイルには、BEA ホーム ディレクトリの logs\log.txt ファイルから抽出された情報が格納されます。

WebLogic Server 6.1 フォルダ（[スタート | プログラム | BEA WebLogic E-Business Platform | WebLogic Server 6.1]）には、下図のようなショートカット ファイルがあります。

図 2-2 WebLogic Server ショートカット ファイル



- Examples - WebLogic Server サンプル サーバの概要、および Windows システムでのサンプル サーバの起動方法を学ぶことができます。サンプル サー

バの詳細については、7-7 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動」を参照してください。

- WebLogic Server Tour - WebLogic Server Pet Store サーバとアプリケーションの概要、および Windows システムでの Pet Store サーバとアプリケーションの起動方法を学ぶことができます。Pet Store サーバとアプリケーションの詳細については、7-7 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動」を参照してください。
- About WebLogic Server 6.1 (または、サービス パックを統合した WebLogic Server 6.1 インストールの場合は About WebLogic Server 6.1 (spx)) - WebLogic Server 6.1 に関する重要な情報が含まれています。(spx) の *x* は、WebLogic Server 6.1 ソフトウェアに統合されたサービス パックのレベルを表します。
- Remove WebLogic Default Service - システムから WebLogic Server サービスを削除します。WebLogic Server デフォルト サーバは、システム起動時に自動的に起動しなくなります。デフォルト サーバの詳細については、7-7 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動」を参照してください。
- Start Default Console - Windows システムで WebLogic Server デフォルト コンソールを起動します (デフォルト コンソールは WebLogic Server 用の Web ベースの Administration Console のインスタンスです)。デフォルト コンソールを起動する前に、WebLogic Server デフォルト サーバを起動する必要があります。デフォルト コンソールの起動には、ユーザ名とパスワードの入力が要求されます。ユーザ名は `system`、パスワードは、インストール時に指定したシステム パスワードです。デフォルト コンソール起動の詳細については、7-20 ページの「Administration Console の起動」を参照してください。
- Start Default Server - Windows システムで WebLogic Server デフォルト サーバを起動します。デフォルト サーバの起動には、パスワードの入力が要求されます。パスワードは、インストール時に指定したシステム パスワードです。デフォルト サーバ起動の詳細については、7-7 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動」を参照してください。
- Uninstall WebLogic Server 6.1 (または、サービス パックを統合した WebLogic Server 6.1 インストールの場合は About WebLogic Server 6.1 (spx)) - WebLogic Server 6.1 ソフトウェアをアンインストールします。(spx) の *x* は、WebLogic Server 6.1 ソフトウェアに統合されたサービス

パックのレベルを表します。WebLogic Server のアンインストールの詳細については、7-28 ページの「WebLogic Server のアンインストール」を参照してください。

次のステップ

WebLogic Server 6.1 の詳細については、以下のファイルを参照してください。

- ABOUT_WLS.HTML

このファイルには、このバージョンの WebLogic Server の新機能の概要と、関連情報の参照先リストが入っています。

Windows システムでは、[About WebLogic Server 6.1] ショートカット（または、サービス パックを統合した WebLogic Server 6.1 インストールの場合は [About WebLogic Server 6.1(spx)] ショートカット）を使用してこのファイルにアクセスできます。Windows システムと UNIX システムのどちらでも、*wls_6.1_prod_dir*\ABOUT_WLS.HTML (*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) で ABOUT_WLS.HTML ファイルにアクセスできます。

- README.TXT

ABOUT_WLS.HTML ファイルのテキストのみのバージョンです。README.TXT ファイルには、*wls_6.1_prod_dir*\README.TXT (*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) でアクセスできます。

ソフトウェアが正しくインストールされていることを確認し、デフォルトのサーバとコンソールを起動するには、7-1 ページの「インストール後の作業の実行」を参照してください。

3 UNIX システム上でのコンソール モード インストールによる WebLogic Server のインストール

以下の節では、コンソール モードを使用して WebLogic Server をインストールする方法について説明します。

- コンソールモード インストールとは
- 始める前に
- コンソールモード インストールの開始
- コンソールモード インストールの実行
- 次のステップ

コンソールモード インストールとは

コンソールモード インストールとは、テキストベースで BEA インストール プログラムを実行する方法のことです。コンソールモード インストールは UNIX システム上でのみ実行可能で、非グラフィック コンソールを備えた UNIX システムを対象としています。

以下の節では、コンソールモード インストールによる WebLogic Server 基本製品のインストールについて説明します。基本製品とは WebLogic Server の完全インストールのことで、Java Development Kit (JDK) のインストールも含まれます。WebLogic Server 基本製品には、サービス パックが適用されていてもいなくてもかまいません。

注意： WebLogic Server の今後のリリースでは、UNIX システムのインストールのデフォルト モードはコンソールモード インストールになる予定です。「デフォルト」とは、コマンドライン パラメータ (`-i console`) を追加せずにインストール コマンドを入力すると、コンソールモード インストールが開始されるということです。

始める前に

WebLogic Server バージョン 6.1 の時点では、WebLogic Server 6.0 または 6.1 に WebLogic Server を上書きインストールすることはできません。7-28 ページの「WebLogic Server のアンインストール」で説明しているように、まず WebLogic Server をアンインストールする必要があります。

コンソールモード インストールの開始

UNIX プラットフォーム用 WebLogic Server 6.1 インストーラは、以下のいずれかの形をとります。

- JDK 1.3.1 に付属のシェル スクリプトにラップされた Java インストーラ（ファイル名の末尾は .bin）
- JDK がない pure Java インストーラ（ファイル名の末尾は .zip）

この節では、両方のタイプのインストーラによるインストール手順を説明します。

filename.bin のインストーラによるコンソールモード インストールの開始

filename.bin インストーラによるコンソールモード インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。
 - b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始します。

```
sh filename.bin -i console
```

このコマンドでは、*filename* は WebLogic Server インストーラの名前を表します。

注意： インストーラを起動するディレクトリには、書き込みパーミッションが設定されている必要があります。

4. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合
 - a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
 - c. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
sh filename.bin -i console
```

このコマンドでは、*filename* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表します。
5. 3-5 ページの「コンソールモード インストールの実行」に進みます。

filename.zip のインストーラによるコンソールモード インストールの開始

filename.zip インストーラによるコンソールモード インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. JDK 1.3 (またはそれ以降のバージョン) の `bin` ディレクトリを、対象システム上の `PATH` 変数設定の先頭に含めます。次に例を示します。

```
PATH=full_path_to_jdk131/bin:$PATH
export PATH
```

full_path_to_jdk131 を JDK 1.3.1 ディレクトリの完全パス名に置き換えます。
4. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。

- b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、次のコマンドを入力してインストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install -i console
```

このコマンドでは、*filename* は WebLogic Server インストーラの名前を表します。

- 5. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合

- a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
- b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
- c. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install -i console
```

このコマンドでは、*filename* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表します。

注意： インストーラを起動するディレクトリには、書き込みパーミッションが設定されている必要があります。

- 6. 3-5 ページの「コンソールモード インストールの実行」に進みます。

コンソールモード インストールの実行

コンソールモード インストール プロセスを完了するには、各セクションで選択する項目の番号を入力するか、または〔Enter〕を押してデフォルトを受け付け、指示に回答します。インストール プロセスを中止するには、指示に対して `quit` を入力します。選択した内容を確認したり変更したりするには、指示に対して `back` を入力します。

セクション	実行するアクション
[Choose Locale]	<p>言語に対応する番号を入力して、インストール時のテキストを表示する言語を選択する。</p> <pre>===== Choose Locale... 1- English ->2- 日本語 CHOOSE LOCALE BY NUMBER: =====</pre> <p>たとえばテキストを日本語で表示する場合は、CHOOSE LOCALE BY NUMBER と表示されたときに 2 を入力する。デフォルトは locale に依存。</p>
[はじめに]	<p>インストールを続行するには [Enter] を押す。</p>
[ライセンス契約]	<p>BEA ソフトウェア使用許諾契約を読み、契約の条件に同意するか拒否するかを、それぞれ Y または N を入力することで示す。契約書全体を見るには、[Enter] を何回か押す必要がある。インストールを続行するには、Y を入力して、ライセンス契約の条件に同意することを示す必要がある。N を入力すると、以下の警告が表示される。</p> <p>警告 :</p> <p>ライセンス契約の条件に同意されない場合、インストール作業を続行することはできません。</p> <p>ライセンスの契約に同意されますか ? (Y/N):</p> <p>N を入力すると、インストール プロセスは中断する。</p>

セクション	実行するアクション
-------	-----------

[インストール セットの選択]

対象システムにインストールするソフトウェアを選択する。以下のオプションが表示される。

```

=====
インストール セットの選択
-----
Please Choose the Install Set to be installed by this
installer.
  ->1- 標準インストール
      2- カスタマイズ ...

ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR <ENTER> TO
ACCEPT THE DEFAULT:
=====

```

- プログラム ファイルおよびサンプルをインストールするには、1 を入力する。
- プログラム ファイルのみをインストールする場合は 2 を入力する。指示が表示されたら、インストールするファイルを示す番号を入力する。プログラム ファイルおよびサンプル ファイルの基本的な説明については、1-4 ページの「WebLogic Server ソフトウェアのコンポーネント」を参照。

セクション	実行するアクション
[BEA ホーム ディレクトリを選択します]	<p>対象システム上にインストールされた BEA 製品の中央サポート ディレクトリとして機能する BEA ホーム ディレクトリを指定する。システム上に BEA ホーム ディレクトリがすでに存在する場合は、そのディレクトリを選択するか (推奨) または新規の BEA ホーム ディレクトリを作成する。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストールプログラムは、自動的にディレクトリを作成する。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-8 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照。</p> <p>1 を入力して新規の BEA ホーム ディレクトリを作成するか、または BEA ホーム ディレクトリがシステム上にすでに存在する場合に、2 を入力して、既存の BEA ホーム ディレクトリを選択する。新規の BEA ホーム ディレクトリを指定する場合には、絶対パス名で指定しなければならない。</p> <p>次に例を示す。</p> <pre>===== BEA ホーム ディレクトリを選択します ----- 1- 新しい BEA ホームを作成する 2- 既存の BEA ホームを使用する 番号を入力してください： 2 1- /home3/bea 2- /home2/beahome 使用する BEA ホーム： 1 ===== BEA ホーム ディレクトリを選択します ----- この例では、このシステム上にすでに作成されている BEA ホーム ディレクトリを表示するために 2 を入力する。使用する BEA ホーム : と表示されたら、1 を入力して、/home3/bea をこのインストールの BEA ホーム ディレクトリとして指定する。ディレクトリ名ではなく、BEA ホーム ディレクトリに関連付けられている番号を入力する必要がある。</pre>

セクション	実行するアクション
[製品のディレクトリを選択します]	<p>WebLogic Server ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定する。デフォルトの製品ディレクトリ (wlserver6.1) を選択するか、新しい製品ディレクトリを作成する。新しいディレクトリの作成を選択した場合、WebLogic Server インストール プログラムは、自動的にディレクトリを作成する。</p> <p>初期デフォルトでは、製品ディレクトリは、前のセクションで指定した BEA ホーム ディレクトリの下にインストールされる。このデフォルトを受け付ける場合は、指示が表示されたときに 2 を入力する。</p> <p>このセクションでは以下のオプションが表示される。</p> <pre> ===== 製品のインストール ディレクトリを選択します： ----- 1- 現在の選択 (home3/bea/wlserver6.1) を変更します 2- 現在の選択 (home3/bea/wlserver6.1) を使用します 番号を入力します： ===== </pre> <ul style="list-style-type: none"> ■ 代わりのディレクトリを選択するには 1 を入力する。次のメッセージが表示される。 製品のインストール ディレクトリを指定します： 絶対パス名で製品ディレクトリを指定する。次に例を示す。 /home3/weblogicserver6.1 [Enter] を押すと、指定したディレクトリがデフォルトとして表示される。 1- 現在の選択 (/home3/weblogicserver6.1) を変更します 2- 現在の選択 (/home3/weblogicserver6.1) を使用します ■ 現在の選択内容を受け付ける場合は 2 を選択する。最初に指示で 2 を入力した場合には、デフォルトの製品ディレクトリ (この例では、 /home3/bea/wlserver6.1) を受け付ける。

セクション	実行するアクション
[デフォルト サーバ コンフィグレーション]	<p>以下のいずれかの数字を入力して、WebLogic Server デフォルト サーバのコンフィグレーションを定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 各エントリのデフォルト値（括弧内の値）を受け付ける場合は 5 を入力する。 ■ 個々のエントリの値を変更する場合は、1 ~ 4 を入力する。 <p>注意： 以前のコンフィグレーションでこれらのデフォルトを変更した後に WebLogic Server を再インストールする場合、この選択ではその変更を反映したデフォルト値が表示される。</p> <p>インストール プログラムには、以下の選択オプションが表示される。</p> <pre>===== デフォルト サーバ コンフィグレーション ===== 1- 変更 WebLogic 管理ドメイン名 (mydomain) 2- 変更サーバ名 (myserver) 3- 変更リスン ポート (7001) 4- 変更セキュア (SSL) リスン ポート (7002) 5- コンフィグレーション終了</pre> <p>番号を入力してください：</p> <pre>=====</pre> <ul style="list-style-type: none"> ■ 管理ドメイン名を変更する場合は 1 を入力する。WebLogic 管理ドメイン名 と表示されたら、任意のドメイン名を入力する。初期デフォルトは mydomain。 <p>ドメインとは、WebLogic Server インストールの管理単位を表す。WebLogic のドメインは、1 つまたは複数の WebLogic Server で構成される。WebLogic ドメインの詳細については、『管理者ガイド』の「WebLogic Server 管理の概要」を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サーバ名を変更する場合は 2 を入力する。サーバ名： と表示されたら、任意のサーバ名を入力する。初期デフォルトは myserver。 ■ リスン ポート番号を変更する場合は 3 を入力する。リスン ポートは、デフォルト サーバが接続をリスンする専用 TCP/IP ポートを指す。リスン ポート： と表示されたら、任意のポート番号を入力する。初期デフォルトは 7001。 ■ セキュア リスン ポート番号を変更する場合は 4 を入力する。セキュア リスン ポート番号は、セキュアソケットレイヤ (SSL) プロトコルに基づくセキュア Web 接続で使用される。セキュア (SSL) リスン ポート： と表示されたら、任意のポート番号を入力する。初期デフォルトは 7002。 ■ サーバのコンフィグレーションが完了して、番号を入力してください： と表示されたら、5 を入力する。

セクション	実行するアクション
[システム パスワード を作成します]	<p>8 文字以上 20 文字以下のパスワードを入力する。次のセクションに進むには、[Enter] を押す。</p> <p>WebLogic Server デフォルト サーバとサンプル サーバ、および Pet Store サーバを起動する場合にこのパスワードを要求される。Web ブラウザから WebLogic Server Administration Console にアクセスする際には、ユーザ名 <code>system</code> とこのパスワードが要求される。インストール プログラムは、インストール時に <code>system</code> アカウント (ここで指定したパスワードを持つユーザ名 <code>system</code>) を作成する。</p>
[インストールしてい ます ...]	<p>このウィンドウではユーザ入力は不要。インストール プログラムは、ユーザが指定した製品ディレクトリに WebLogic Server をインストールしている。</p> <p>注意: インストールのプログレス バーが、特に最後の段階で、長時間停止しても問題はない。プログレス バーが停止してもインストール処理は続行されている。</p>
[インストール完了]	[Enter] を押して、インストール プログラムを終了する。

以上で、BEA WebLogic Server ソフトウェアのインストールが完了しました。

次のステップ

WebLogic Server 6.1 の詳細については、以下のファイルを参照してください。

■ ABOUT_WLS.HTML

このファイルには、このバージョンの WebLogic Server の新機能の概要と、関連情報の参照先リストが入っています。ABOUT_WLS.HTML ファイルには、`wls_6.1_prod_dir/ABOUT_WLS.HTML` (`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) でアクセスできます。

- README.TXT

ABOUT_WLS.HTML ファイルのテキストのみのバージョンです。README.TXT ファイルには、`wls_6.1_prod_dir/README.TXT` (`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) でアクセスできます。

ソフトウェアが正しくインストールされていることを確認し、デフォルトのサーバとコンソールを起動するには、7-1 ページの「インストール後の作業の実行」を参照してください。

4 サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール

以下の節では、Windows および UNIX システムでサイレント インストールを使用して WebLogic Server をインストールする方法について説明します。

- サイレント インストールとは
- 始める前に
- サイレント インストール : 主な手順
- テンプレート ファイルの作成
- Windows システム上でのサイレント インストール プロセスの開始
- UNIX システム上でのサイレント インストール プロセスの開始
- Windows のテンプレート ファイル
- UNIX のテンプレート ファイル
- 次のステップ

サイレント インストールとは

サイレント インストールでは、インストールを開始する前にユーザが作成したテキスト ファイルからコンフィグレーションの設定が読み込まれます。そのため、インストール プロセスでユーザが何らかの操作を行う必要はありません。サイレント インストールは、Windows システムでも UNIX システムでも利用できます。

サイレント インストールは、いったんインストールのコンフィグレーションを設定してから、そのコンフィグレーションを使用して多数のマシンにインストールを複製する方法の 1 つです。

以下の節では、サイレント インストールによる WebLogic Server 基本製品のインストールについて説明します。基本製品とは WebLogic Server の完全インストールのことで、Java Development Kit (JDK) のインストールも含まれます。

WebLogic Server 基本製品には、サービス パックが適用されていてもいなくてもかまいません。

注意： サイレント インストールを使用するということは、BEA ライセンス契約に同意したことになります。BEA ソフトウェア使用許諾契約が表示されることもなく、契約書の条件に同意することを確認する画面も表示されません。

始める前に

WebLogic Server バージョン 6.1 の時点では、WebLogic Server 6.0 または 6.1 に WebLogic Server を上書きインストールすることはできません。7-28 ページの「WebLogic Server のアンインストール」で説明しているように、まず WebLogic Server をアンインストールする必要があります。

サイレント インストール : 主な手順

サイレント インストール プロセスには、主に 2 つの手順があります。

1. BEA ホーム ディレクトリ、製品ディレクトリ、ドメインおよびサーバ名、インストールに合わせたリスン ポートなど、コンフィグレーション設定が入ったテンプレート ファイルを作成します。

手順の詳細については、4-3 ページの「テンプレート ファイルの作成」を参照してください。テンプレート ファイルについては、4-11 ページの「Windows のテンプレート ファイル」と 4-13 ページの「UNIX のテンプレート ファイル」を参照してください。

2. テンプレート ファイルで指定された値を使ってインストール プロセスを開始します。

手順の詳細については、4-7 ページの「Windows システム上でのサイレント インストール プロセスの開始」と 4-8 ページの「UNIX システム上でのサイレント インストール プロセスの開始」を参照してください。

テンプレート ファイルの作成

サイレント インストール プロセスでテンプレート ファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 使用しているプラットフォーム固有のテンプレート ファイルをサポートされているブラウザで表示します。以下のテンプレートを使用できます。
 - [Windows のテンプレート ファイル](#)
 - [UNIX のテンプレート ファイル](#)
2. テンプレート ファイルの内容をコピーして、WebLogic Server インストーラが入っているディレクトリ内に、`installer.properties` という名前のテキスト ファイルとして保存します。
3. `installer.properties` ファイルで、以下の表に示したキーワードの値を必要なコンフィグレーションに合わせて変更します。

4 サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール

キーワード	入力する値
INSTALLER_UI=	インストール モード。デフォルトは <code>silent</code> で、この値は変更しないこと。
USER_LOCALE=	インストール時に表示される言語を指定する言語コード。この値は、英語を表す <code>en</code> 以外にも、ドイツ語 (Deutsch) を表す <code>de</code> 、スペイン語 (Español) を表す <code>es</code> 、フランス語 (Français) を表す <code>fr</code> 、または日本語を表す <code>ja</code> (または <code>ja_JP</code>) に設定できる。
BEAHOME=	任意の BEA ホーム ディレクトリの絶対パス名。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-8 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照。
USER_INSTALL_DIR=	任意の WebLogic Server 製品ディレクトリの絶対パス名。
C_domainName=	WebLogic Server デフォルト サーバの任意のドメイン名。
C_serverName=	WebLogic Server デフォルト サーバの任意のサーバ名。
C_serverListenPort=	WebLogic Server デフォルト サーバ専用の TCP/IP ポート番号。サーバが接続をリスンするポートをこの番号で指定する。デフォルトでは 7001。デフォルトを受け付けるには、この値を変更しないこと。
C_serverSSLListenPort=	WebLogic Server デフォルト サーバ専用のセキュアリスン ポート番号。セキュアリスン ポート番号は、セキュアソケットレイヤ (SSL) プロトコルに基づくセキュア Web 接続で使用される。デフォルトでは 7002。デフォルトを受け付けるには、この値を変更しないこと。

キーワード	入力する値
INSTALL_NT_SERVICE= (Windows システムのみ)	<p>WebLogic Server デフォルト サーバを Windows サービスとしてインストールするかどうかを指定する。yes を選択した場合、Windows システムを起動するたびに、デフォルト サーバがサービスとして起動する。デフォルトは no。WebLogic Server はサービスとしてインストールされない。デフォルトを受け付けるには、この値を変更しないこと。</p> <p>WebLogic Server をサービスとしてインストールする場合の詳細については、2-9 ページの「WebLogic Server の Windows サービスについて」を参照。</p>
C_password=	<p>8 文字以上 20 文字以下の文字列を含む任意のパスワード。</p> <p>WebLogic Server デフォルト サーバとサンプルサーバ、および Pet Store サーバを起動する場合にこのパスワードを要求される。Web ブラウザから WebLogic Server Administration Console にアクセスするには、ユーザ名 system とこのパスワードが要求される。インストール プログラムは、インストール時に system アカウント (ここで指定したパスワードを持つユーザ名 system) を作成する。</p>
CHOSEN_INSTALL_SET=	<p>選択したインストール セット。デフォルトは ServerExample で、プログラム ファイルとサンプル ファイルの両方がインストールされる。この値は、ServerExample または ServerOnly のいずれかに設定できる。プログラム ファイルだけをインストールする場合は、この値を ServerOnly に設定する。</p> <p>プログラム ファイルおよびサンプル ファイルの基本的な説明については、1-4 ページの「WebLogic Server ソフトウェアのコンポーネント」を参照。</p>

4 サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール

テンプレート ファイルでは、コメント行の先頭には、ハッシュ マーク (#) が付いています。

WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールするには、
INSTALL_NT_SERVICE=no 行をコメントアウトし、INSTALL_NT_SERVICE=yes
行のコメントを解除します。

ServerOnly インストール セットを指定するには、
CHOSEN_INSTALL_SET=ServerExample 行をコメントアウトし、
CHOSEN_INSTALL_SET=ServerOnly 行のコメントを解除します。

Windows システム上でのサイレント インストール プロセスの開始

サイレント インストールを利用してソフトウェアをインストールする場合は、標準のインストールと同じ時間がかかります。サイレント インストール中に、インストールが始まったことを示す初期インストール プログラム ウィンドウが一瞬表示されます。

Windows システム上でサイレント インストールを開始するには、次の手順を実行します。

1. Windows システムにログインします。

WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールするには、Administrator 権限を持っている必要があります。WebLogic Server を Windows サービスとしてインストールする場合の詳細については、2-9 ページの「WebLogic Server の Windows サービスについて」を参照してください。

2. コマンドライン シェルを開きます。

3. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合

- a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。
- b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、`installer.properties` ファイルの絶対パス名を指定することに注意して次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
filename.exe -f full_path\installer.properties
```

このコマンドでは、`filename` は WebLogic Server インストーラの名前を表し、`full_path` は `installer.properties` ファイルの絶対パス名を表します。

4. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合

- a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。

- b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
- c. `installer.properties` ファイルの絶対パスを指定することに注意して、次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
filename.exe -f full_path\installer.properties
```

このコマンドでは、*filename* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表し、*full_path* は `installer.properties` ファイルの絶対パス名を表します。
5. ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認する場合は、7-1 ページの「インストール後の作業の実行」を参照してください。

UNIX システム上でのサイレント インストール プロセスの開始

UNIX プラットフォーム用 WebLogic Server 6.1 インストーラは、以下のいずれかの形をとります。

- JDK 1.3.1 に付属のシェル スクリプトにラップされた Java インストーラ (ファイル名の末尾は `.bin`)
- JDK がない pure Java インストーラ (ファイル名の末尾は `.zip`)

この節では、両方のタイプのインストーラによるインストール手順を説明します。

filename.bin のインストーラによるサイレント インストール プロセスの開始

サイレント インストールを利用してソフトウェアをインストールする場合は、標準のインストールと同じ時間がかかります。インストール時には、[インストールしています...] に続いて、インストールが開始されたことを示す起動メッセージが表示されます。

filename.bin インストーラによるサイレント インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。
 - b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、*installer.properties* ファイルの絶対パス名を指定することに注意して次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
sh filename.bin -f full_path/installer.properties
```

このコマンドでは、*filename* は WebLogic Server インストーラの名前を表し、*full_path* は *installer.properties* ファイルの絶対パス名を表します。

注意： インストーラを起動するディレクトリには、書き込みパーミッションが設定されている必要があります。

4. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合
 - a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
 - b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
 - c. *installer.properties* ファイルの絶対パスを指定することに注意して、次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
sh filename.bin -f full_path/installer.properties
```

このコマンドでは、*filename* は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表し、*full_path* は *installer.properties* ファイルの絶対パス名を表します。

5. ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認する場合は、7-1 ページの「インストール後の作業の実行」を参照してください。

filename.zip のインストーラによるサイレント インストール プロセスの開始

サイレント インストールを利用してソフトウェアをインストールする場合は、標準のインストールと同じ時間がかかります。インストール時には、[インストールしています...]に続いて、インストールが開始されたことを示す起動メッセージが表示されます。

filename.zip インストーラによるサイレント インストール プロセスを開始するには、次の手順に従います。

1. 対象の UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. JDK 1.3 (またはそれ以降のバージョン) の `bin` ディレクトリを、対象システム上の `PATH` 変数設定の先頭を含めます。次に例を示します。

```
PATH=full_path_to_jdk131/bin:$PATH  
export PATH
```

full_path_to_jdk131 を JDK 1.3.1 ディレクトリの完全パス名に置き換えます。

4. BEA Web サイトからダウンロードして WebLogic Server をインストールする場合
 - a. <http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> にアクセスし、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラをダウンロードします。

- b. インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動し、`installer.properties` ファイルの絶対パス名を指定することに注意して次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install -f full_path/installer.properties
```

このコマンドでは、`filename` は WebLogic Server インストーラの名前を表し、`full_path` は `installer.properties` ファイルの絶対パス名を表します。

注意： インストーラを起動するディレクトリには、書き込みパーミッションが設定されている必要があります。

5. CD-ROM から WebLogic Server をインストールする場合

- a. WebLogic Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
- b. CD-ROM ディレクトリに移動します。
- c. `installer.properties` ファイルの絶対パスを指定することに注意して、次のコマンドを入力し、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install -f full_path/installer.properties
```

このコマンドでは、`filename` は、プラットフォームに対応した WebLogic Server インストーラの名前を表し、`full_path` は `installer.properties` ファイルの絶対パス名を表します。

6. ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認する場合は、7-1 ページの「インストール後の作業の実行」を参照してください。

Windows のテンプレート ファイル

この Windows テンプレート ファイルのサンプルは、WebLogic Server 6.1 (サービス パック未適用) WebLogic Server 6.1 (サービス パック適用済み) または WebLogic Server 6.1 サービス パックをサイレントインストールする場合のものです。

```
#####  
### Silent Installation Properties File  
#####
```

4 サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール

```
INSTALLER_UI=silent
#####
### Locale
#####
USER_LOCALE=en
#####
### BEA Home Directory
### NOTE: backslashes must be escaped.
#####
BEAHOME=c:\\bea
#####
### Product Installation Directory
#####
USER_INSTALL_DIR=c:\\bea\\wlserver6.1
#####
### Default Domain
#####
C_domainName=mydomain
#####
### Default Server
#####
C_serverName=myserver
#####
### Default Listen Port
#####
C_serverListenPort=7001
#####
### Default SSL Listen Port
#####
C_serverSSLListenPort=7002
#####
```

```
### Install WebLogic Server as a Windows Service
#####
#INSTALL_NT_SERVICE=yes
INSTALL_NT_SERVICE=no
#####
### System Password
#####
C_password=abcd1234
#####
### Default Install Set
### Valid Values: ServerExample, ServerOnly
#####
CHOSEN_INSTALL_SET=ServerExample
#CHOSEN_INSTALL_SET=ServerOnly
```

UNIX のテンプレート ファイル

この UNIX テンプレート ファイルのサンプルは、WebLogic Server 6.1 (サービスパック未適用)、WebLogic Server 6.1 (サービスパック適用済み)、または WebLogic Server 6.1 サービスパックをサイレントインストールする場合のものです。

```
#####
### Silent Installation Properties File
#####
INSTALLER_UI=silent
#####
### Locale
#####
USER_LOCALE=en
#####
### BEA Home Directory
```

4 サイレント インストールによる WebLogic Server のインストール

```
#####
BEAHOME=/home/beadev/rsmith/solaris/bea
#####
### Product Installation Directory
#####
USER_INSTALL_DIR=/home/beadev/rsmith/solaris/bea/wlserver6.1
#####
### Default Domain
#####
C_domainName=mydomain
#####
### Default Server
#####
C_serverName=myserver
#####
### Default Listen Port
#####
C_serverListenPort=7001
#####
### Default SSL Listen Port
#####
C_serverSSLListenPort=7002
#####
### System Password
#####
C_password=abcd1234
#####
### Default Install Set
### Valid Values: ServerExample, ServerOnly
#####
CHOSEN_INSTALL_SET=ServerExample
#CHOSEN_INSTALL_SET=ServerOnly
```

次のステップ

WebLogic Server 6.1 の詳細については、以下のファイルを参照してください。

- ABOUT_WLS.HTML

このファイルには、このバージョンの WebLogic Server の新機能の概要と、関連情報の参照先リストが入っています。

Windows システムでは、[About WebLogic Server 6.1] ショートカット（または、サービス パック適用済み WebLogic Server 6.1 インストールの場合は [About WebLogic Server 6.1(spx)] ショートカット）を使用してこのファイルにアクセスできます。Windows システムと UNIX システムのどちらでも、*wls_6.1_prod_dir*\ABOUT_WLS.HTML (*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) で ABOUT_WLS.HTML ファイルにアクセスできます。

- README.TXT

ABOUT_WLS.HTML ファイルのテキストのみのバージョンです。README.TXT ファイルには、*wls_6.1_prod_dir*\README.TXT (*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) でアクセスできます。

ソフトウェアが正しくインストールされていることを確認し、デフォルトのサーバとコンソールを起動するには、7-1 ページの「インストール後の作業の実行」を参照してください。

5 WebLogic Server ライセンスのインストール

WebLogic Server 配布キットを実行するには、有効な製品ライセンスが必要です。以下の節では、WebLogic Server ライセンスの取得方法、インストール方法、および更新方法について説明します。

- WebLogic Server ライセンスについて
- WebLogic Server ライセンスの取得
- license.bea ファイルの更新
- WebLogic Server 6.0 からのライセンスのアップグレード
- 6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのライセンスのアップグレード

WebLogic Server ライセンスについて

WebLogic Server 6.0 および 6.1 は、`license.bea` という XML 形式のライセンスを使用します。BEA ホーム ディレクトリに保存されるこのライセンス ファイルは、対象システムでインストールされているすべての BEA WebLogic 製品で使用します。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、1-8 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照してください。

BEA ホーム ディレクトリ規約を使用する BEA WebLogic 製品を初めてダウンロードおよびインストールするときに、インストール プログラムは、インストール時に作成した BEA ホーム ディレクトリに `license.bea` ファイルをインストールし、ファイルに対して製品の評価ライセンスが適用されます。それ以後、配布キットの一部として `license.bea` ファイルを含む BEA 製品をダウンロードおよびインストールすると、インストール プログラムは、製品の評価ライセンスを `license.bea` ファイルに自動的に追加します。

評価ライセンス

WebLogic Server の評価版には 30 日間有効な評価ライセンスが付属されており、すぐに WebLogic Server の使用を開始できます。30 日の評価期間を超えて WebLogic Server を使用するには、無期限ライセンスの購入について販売担当者にお問い合わせください。

WebLogic Server のすべての評価用製品は、1 サーバマシン上での使用をライセンスの対象としており、そのサーバで最大 5 つまでの接続が可能です。

無期限のライセンス

CD-ROM の WebLogic Server を購入する場合、開発ライセンスまたは製品ライセンスを電子メールで受け取ります。WebLogic Server ソフトウェアをインストールして製品ライセンスを受け取ったら、そのライセンス ファイルを使用して既存の `license.bea` ファイルを更新しなければなりません。

WebLogic Server ライセンスの取得

WebLogic Server のライセンスは、WebLogic Server 製品の評価版をダウンロードした BEA Web サイトから取得するか、CD-ROM の WebLogic Server を購入したときに電子メールで取得できます。BEA の Web サイト

(<http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html>) から WebLogic Server をダウンロードした場合は、配布キットに評価ライセンスが含まれています。

セキュアソケットレイヤ (Secure Sockets Layer : SSL) 暗号化ソフトウェアは、56 ビットおよび 128 ビットの 2 つのレベルで使用可能です。ライセンスには、56 ビット暗号化がデフォルトで付属しています。128 ビット暗号化のライセンスも使用可能ですが、個別の認証手順が必要になります。

30 日間の評価ライセンスには、56 ビット暗号化のみが有効ですが、無期限ライセンスを購入すれば、56 ビットか 128 ビットの暗号化が有効になります。ライセンス購入の詳細については、「BEA Sales」

(<http://www.bea.com/contact/sales1.shtml>) までお問い合わせください。

license.bea ファイルの更新

以下のいずれかの条件に該当する場合には、license.bea ファイルを更新する必要があります。

- WebLogic Server 6.1 の 30 日間の評価期間の延長を申し込み、その許可を受けた場合。
- CD-ROM から WebLogic Server 6.1 をインストールした場合。
- BEA WebLogic ソフトウェアを追加購入した場合。
- 新製品を含む新しい配布キットを取得した場合。
- WebLogic Server 6.0 の無期限ライセンス ファイル license_wls60.bea ファイルを持っており、BEA Web サイトから WebLogic Server 6.1 をダウンロードした後に WebLogic Server 6.1 のライセンスにアップグレードする場合。
license_wls60.bea ファイルを license_wls61.bea ファイルに変換する必要があります。手順については、5-6 ページの「WebLogic Server 6.0 からのライセンスのアップグレード」を参照してください。
- WebLogic Server 6.0 より前のバージョン (5.1 以前) で使用されていた WebLogicLicense.XML ファイルまたは WebLogicLicense.class ファイルのいずれかを持っている場合。これらのライセンス ファイルを license_wls61.bea ファイルに変換する必要があります。手順については、5-6 ページの「6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのライセンスのアップグレード」を参照してください。

これらの場合のいずれかに該当するときには、ライセンス更新ファイルを電子メールの添付ファイルとして受け取ることになります。5-4 ページの「Windows システムでの license.bea ファイルの更新」または 5-5 ページの「UNIX システムでの license.bea ファイルの更新」で説明されている手順に従って、license.bea ファイルを更新します。

注意: 128 ビット暗号化を有効にするには、WebLogic Server ソフトウェアをインストールする前に、license.bea ファイルで 128 ビット暗号化を指定する必要があります。詳細については、1-13 ページの「128 ビット暗号化の有効化」を参照してください。

Windows システムでの license.bea ファイルの更新

Windows システムで既存の `license.bea` ファイルを更新するには、以下の手順に従います。

1. Windows システムにログインします。
2. 電子メールで受け取ったライセンス更新ファイルを、`license.bea` 以外の名前を対象の BEA ホーム ディレクトリに保存します。
3. コマンド シェル ウィンドウを開きます。
4. 対象の BEA ホーム ディレクトリに移動します。
5. 次のコマンドを入力して、JDK 1.3（またはそれ以降の）ソフトウェアのパスを `PATH` の先頭に含めます。

```
set PATH=.\jdk131\bin;%PATH%
```

6. 次のコマンドを入力して、ライセンス更新ファイルを既存のライセンスに結合します。

```
UpdateLicense license_update_file
```

license_update_file は、電子メールで受け取ったライセンス更新ファイルを保存したときの名前です。このコマンドを実行すると、`license.bea` ファイルが更新されます。

7. `license.bea` ファイルのコピーを WebLogic Server 製品ディレクトリ以外の安全な場所に保存します。ライセンス取得ユーザ以外にライセンス ファイルを使用することはできませんが、悪意の有無にかかわらず、誰かが改ざんすることのないように、このファイルを安全な場所に保存してください。

UNIX システムでの license.bea ファイルの更新

UNIX システムで既存の `license.bea` ファイルを更新するには、以下の手順に従います。

1. UNIX システムにログインします。
2. コマンドシェル ウィンドウを開きます。
3. 電子メールで受け取ったライセンス更新ファイルを、`license.bea` 以外の名前で対象の BEA ホーム ディレクトリに保存します。
4. 対象の BEA ホーム ディレクトリに移動します。
5. 以下のコマンドを入力して、JDK 1.3（またはそれ以降の）ソフトウェアのパスを `PATH` の先頭に含めます。

```
PATH=./jdk131/bin:$PATH
export PATH
```

6. 次のコマンドを入力して、ライセンス更新ファイルを既存のライセンスに結合します。

```
sh UpdateLicense.sh license_update_file
```

license_update_file は、電子メールで受け取ったライセンス更新ファイルを保存したときの名前です。このコマンドを実行すると、`license.bea` ファイルが更新されます。

7. `license.bea` ファイルのコピーを WebLogic Server 配布キット以外の安全な場所に保存します。ライセンス取得ユーザ以外にライセンスファイルを使用することはできませんが、悪意の有無にかかわらず、誰かが改ざんすることのないように、このファイルを安全な場所に保存してください。

WebLogic Server 6.0 からのライセンスのアップグレード

license_wls6.0.bea ファイルを license_wls6.1.bea ファイルに変換するには、以下の手順を実行します。license_wls6.0.bea ライセンス ファイルは、この手順を実行するマシン上で使用できるようにしておく必要があります。

1. BEA カスタマ サポートの Web サイト (<http://support.bea.com>) にログインします。

注意： この Web サイトにログインするには、BEA eSupport アカウントが必要です。BEA eSupport アカウントがない場合は、カスタマ サポートのサイトでアカウントを登録することができます。

2. WebLogic Server ライセンスを更新するためのリンクをクリックします。
3. 変換するライセンス ファイルが入ったディレクトリのパス名を参照して選択するか、または表示されたボックスにパス名を入力します。次に、[Submit License] をクリックします。
4. 変換された license_wls61.bea ファイルは、電子メールで返信されます。システム上の license.bea ファイルを更新するには、5-3 ページの「license.bea ファイルの更新」を参照してください。

6.0 より前のバージョンの WebLogic Server からのライセンスのアップグレード

6.0 より前のバージョン (5.1 以前) の WebLogic Server で使用されていた XML 形式のライセンス ファイル (WebLogicLicense.XML) と Java 形式のライセンス ファイル (WebLogicLicense.class) は、現在はサポートされていません。

ライセンス・アップグレードに際してのご注意

ライセンス・アップグレードは、お客様が製品を購入された販売元にご依頼ください。

お客様が「日本 BEA システムズ販売パートナー」から WebLogic Server をご購入された場合は、販売パートナーへお問い合わせ、ご依頼ください。弊社販売パートナーがライセンスのアップグレードを行い、新しいライセンスファイルをお届けいたします。

お客様が日本 BEA システムズ(株)から直接 WebLogic Server をご購入された場合は、日本 BEA システムズの営業担当者へご依頼ください。日本 BEA システムズよりアップグレードされたライセンスファイルをお届けいたします。

WebLogicLicense.class ライセンスの変換

WebLogicLicense.class ライセンス ファイルを既存の WebLogic Server インストールで使用している場合は、WebLogic Server 6.1 をインストールする前に、以下の作業を実行します。

1. `licenseConverter` ユーティリティを使って WebLogicLicense.class ライセンス ファイルを WebLogicLicense.XML ファイルに変換します。
2. 5-7 ページの「WebLogicLicense.class ライセンスの変換」で説明されているように WebLogicLicense.XML ファイルを変換します。

WebLogicLicense.XML ライセンスの変換

WebLogicLicense.XML ファイルを `license_wls6.1.bea` ファイルに変換するには、以下の手順を実行します。WebLogicLicense.XML ライセンス ファイルは、この手順を実行するマシン上で使用できるようにしておく必要があります。

1. BEA eLicense の Web サイト (<http://elicense.bea.com>) にログインします。

注意： この Web サイトにログインするには、BEA eLicense アカウントが必要です。BEA eLicense アカウントがない場合は、eLicense サイトでアカウントを登録することができます。

2. Web ページの左側のナビゲーション区画で [Upgrade/Downgrade] をクリックしたあと、ページの指示に従います。変換するライセンスがリストに含まれていない場合には、左側のナビゲーション区画の [Add a Missing License] リンクをクリックします。BEA のライセンス担当チームが、お客様に代わって、その見当たらないライセンスをお調べいたします。
3. 変換されたライセンス ファイルは、電子メールで返信されます。システム上の `license.bea` ファイルを更新するには、5-3 ページの「`license.bea` ファイルの更新」を参照してください。

6 WebLogic Server でのサービスパックのインストールとアンインストール

以下の節では、WebLogic Server のサービス パックをインストールおよびアンインストールする方法について説明します。

- サービス パックとは
- WebLogic Server 6.1 の サービス パック
- サービス パックのインストール プロセス
- サービス パックのインストールの前提条件
- サービス パックのインストール方法
- サービス パックの GUI モード インストール
- サービス パックのコンソールモード インストール
- サービス パックのサイレント インストール
- サービス パックのアンインストール
- サービス パックの再インストール
- サービス パックによって置換または削除されたファイルの参照および回復
- console.war ファイルの操作

サービス パックとは

サービス パック (SP) とは、アプリケーション内で確認されているバグなどの問題を修正するプログラムのことです。また、アプリケーションに新しい機能を追加したり、アプリケーションの機能を拡張したりする場合があります。

WebLogic Server のサービス パックは、すでに WebLogic Server 6.1 をインストールしたユーザ向けのメンテナンス リリースです。メンテナンス リリースとは、更新 / アップグレードを含む WebLogic Server 6.1 ソフトウェアの後続版のことです。「更新」はソフトウェアの変更または追加を表し、更新をソフトウェアに適用した場合、エラーを修正したり、エラーによる影響を取り除いたりすることができます。「アップグレード」は、BEA がリリースしたソフトウェアの改版を表し、新しい機能や別の機能が追加されたり、従来の機能が拡張されたりしたものです。アップグレードには、別途販売される新製品または新機能のリリースは含まれません。

ほとんどのサービス パックと同じように、WebLogic Server 6.1 のサービス パックも、リリース済みのすべてのサービス パックを蓄積したものです。つまり、WebLogic Server 6.1 の新しいサービス パックには、それ以前のサービス パックの修正がすべて含まれるということです。

WebLogic Server 6.1 の サービス パック

使用可能な WebLogic Server 6.1 のサービス パック一覧については、『リリースノート』を参照してください。

サービス パックの配布

WebLogic Server の使用可能なバージョンには、<http://www.beasys.co.jp/evaluation/index.html> でダウンロードできるサービス パックが組み込まれます。インストールしている WebLogic Server が 6.0 以前で、WebLogic Server の最新版が必要な場合、このサイトから WebLogic

Server 6.1 全体を最新の（数字が最も大きな）サービス パックとともにダウンロードできます。このガイドの WebLogic Server インストール手順に従ってインストールを実行してください。

サービス パックなしで（または 6.1 より前のサービス パックと共に）WebLogic Server 6.1 を既にインストールしている場合は、<http://support.bea.com> の BEA eSupport Web サイトにログインし、最新のサービス パック（ある場合）をダウンロードする必要があります。このマニュアルの 6-3 ページの「サービス パックのインストール プロセス」の手順に従ってください。

注意： このサイトからダウンロードを行うには、BEA eSupport アカウントが必要です。BEA eSupport アカウントがない場合は、<http://support.bea.com> でアカウントを取得してください。

サービス パックの内容

サービス パックは、WebLogic Server 6.1 用の新規ファイルおよび変更ファイルを含むインストール ファイルの一部であり、BEA インストール プログラムのコピーです。サービス パック インストーラには、Java Development Kit (JDK) は含まれていません。

サービス パックのインストール プロセス

WebLogic Server 上でサービス パックをインストールするプロセスは以下のとおりです。プロセスのフローでは、BEA インストール プログラムを「SP インストーラ」としてしています。

1. インストール中の表示言語（英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語など）を選択します。
2. SP による更新の適用対象となる WebLogic Server 6.1 インスタンスの BEA ホーム ディレクトリを選択または作成します。
3. SP インストーラが WebLogic Server 6.1 インスタンスの製品ディレクトリを検出して、各種ファイルのバックアップ コピーを作成し、サービス パックのインストールを行います。

SP インストーラは、インストール処理の一部として、サービス パックを適用すると置換または削除される基本ファイルを

`wls_6.1_prod_dir\uninstaller_servicepack\baseRest.jar` ファイル

(`wls_6.1_prod_dir` は適用対象の製品ディレクトリ) に移動します。

`baseRest.jar` ファイルの内容を参照したり、置換または削除されたファイルを `baseRest.jar` ファイルから回復したりするには、[6-23 ページの「サービス パックによって置換または削除されたファイルの参照および回復」](#)を参照してください。

SP インストーラは、起動スクリプト (`startWeblogic.cmd` など)、環境設定スクリプト (`setEnv.cmd` など) および `config` サブフォルダや `examples` サブフォルダ内のその他多くのファイルを含む、WebLogic Server の特定のインスタンス用に修正した多数のファイルのバックアップ コピーも作成します。SP インストーラは、これらのファイルのコピーを、

`wls_6.1_prod_dir\servicepacks\spl\backup` ディレクトリに格納します。

この場合 `wls_6.1_prod_dir` は対象の製品ディレクトリを表します。backup フォルダには、製品ディレクトリ内のフォルダに一致するサブフォルダが入っています。新しいバージョンのファイルに同様な修正をできるように、バックアップファイルを見直す必要があります。バックアップ コピーは、ユーザ用です。

SP インストーラおよびアンインストーラは、これらのファイルを使用しません。

サービス パックのインストールの前提条件

インストールを開始する前に、以下の作業を行う必要があります。

- WebLogic Server 自体だけでなく、対象となる WebLogic Server プラットフォーム上で実行中のすべてのアプリケーションを終了します。
- サービス パック インストーラを対象システムにダウンロードします。
- JDK 1.3 (またはそれ以上の) ソフトウェアのパスを対象システム上の `PATH` 変数設定の先頭に含めます。

アプリケーションと WebLogic Server の終了

サービス パックのインストールを開始する前に、WebLogic Server プラットフォーム上で実行中のすべてのアプリケーションを終了してから、WebLogic Server 自体を終了します。サービス パックの「ホット インストール」はサポートされていません。

デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバを終了するには、[7-21 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止」](#)を参照してください。WebLogic Server の停止の詳細については、『[管理者ガイド](#)』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

サービス パック インストーラのダウンロード

対象のシステムでサービス パック インストーラを格納する任意のディレクトリを選択して、インストーラをそのディレクトリにダウンロードします。

環境の設定

サービス パックのインストールを開始する前に、JDK 1.3 (またはそれ以上の) ソフトウェアのパスを対象システム上の `PATH` 変数設定の先頭に含めます。Java 1.3 以上がないと、BEA インストール プログラムを実行できません。サポートされている各プラットフォームに対応した JDK のリストについては、「[プラットフォーム サポート](#)」ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/weblogic/docs/platforms/index.html>) を参照してください。

Windows システムの場合

Windows システム上で環境を設定するには、以下の手順を実行します。

1. Windows システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. 次のディレクトリに移動します。

```
wls_6.1_prod_dir\config\domain_name
```

ここでは、*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、*domain_name* はインストール時に指定したドメインの名前（デフォルトでは *mydomain*）を表します。

4. 次のコマンドを入力します。

```
setEnv.cmd
```

UNIX システムの場合

UNIX システム上で環境を設定するには、以下の手順を実行します。

1. UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. 次のディレクトリに移動します。

```
wls_6.1_prod_dir/config/domain_name
```

ここでは、*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、*domain_name* はインストール時に指定したドメインの名前（デフォルトでは *mydomain*）を表します。

4. 次のコマンドを入力します。

```
./setEnv.sh
```

サービス パックのインストール方法

以下のいずれかのインストール方法に従って、WebLogic Server 6.1 にサービス パックをインストールします。

- GUI モード インストール (Windows と UNIX) - [6-8 ページの「サービス パックの GUI モード インストール」](#)を参照してください。
- コンソールモード インストール (UNIX のみ) - [6-10 ページの「サービス パックのコンソールモード インストール」](#)を参照してください。
- サイレント インストール (Windows と UNIX) - [6-14 ページの「サービス パックのサイレント インストール」](#)を参照してください。

上記の 3 つのインストール方法は、BEA インストール プログラムの操作モードとは異なります。現在、デフォルトの操作モードは GUI モード インストールです。

注意: 「デフォルト」とは、コマンドライン パラメータ (`-i console`) を追加せずにインストール コマンドを入力すると、GUI モード インストールが開始されるということです。今後のリリースでは、サービス パックと WebLogic Server 基本製品のどちらをインストールする場合でも、コンソール モード インストールが UNIX システムのデフォルト モードとなります。

サービス パックの GUI モード インストール

サービス パックの GUI モード インストールは、WebLogic Server へのサービス パックのインストールをグラフィックベースで実行する方法です。GUI モード インストールは、Windows システムでも UNIX システムでも実行できます。

GUI モード インストールを実行するには、ソフトウェアのインストール先のマシンに付属しているコンソールが Java ベースの GUI をサポートしている必要があります。Windows システムのコンソールはすべて Java ベース GUI をサポートしていますが、UNIX システムの場合は一部のコンソールがサポートしていません。

注意： UNIX システムで非グラフィック コンソールを使ってサービス パックをインストールするには、[6-10 ページの「サービス パックのコンソールモード インストール」](#)を参照してください。

Windows システム上での GUI モード インストールの開始

Windows システム上で GUI モード インストールを使ってサービス パックのアップグレードを開始するには、次の手順を実行します。

1. Windows システムにログインします。
2. サービス パック インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動します。
3. `filename.exe` (`filename` はサービス パック インストーラの名前) をダブルクリックして、インストール手順を開始します。
4. [6-9 ページの「GUI モード インストールの実行」](#)に進みます。

UNIX システム上での GUI モード インストールの開始

UNIX システム上で GUI モード インストールを使って サービス パックのアップグレードを開始するには、次の手順を実行します。

1. UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. サービス パック インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install
```

このコマンドでは、*filename* は サービス パック インストーラの名前を表します。

5. [6-9 ページの「GUI モード インストールの実行」](#)に進みます。

GUI モード インストールの実行

インストール プログラムでは、使用しているシステムとコンフィグレーションに関する具体的な情報を入力する必要があります。サービス パックのインストール中に要求される情報の指定方法については、以下の表を参照してください。

ウィンドウ	実行するアクション
BEA ロゴ	インストール時のテキストを表示する言語を選択する。
[はじめに]	[次へ] ボタンをクリックして、インストールを続行する。 [終了] をクリックすると、インストールをいつでもキャンセルできる。

ウィンドウ	実行するアクション
[BEA ホーム ディレクトリを選択します]	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている BEA ホーム ディレクトリを指定する。BEA ホーム ディレクトリの詳細については、 1-8 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」 を参照。
[インストールしています...]	このウィンドウではユーザ入力不要。インストールプログラムは、対象の WebLogic Server インスタンス上でサービス パックをインストールしている。 注意： インストールのプログレス バーが、特に最後の段階で、長時間停止しても問題はない。プログレス バーが停止してもインストール処理は続行されている。
[インストール完了]	[完了] をクリックして、インストール プログラムを終了する。

以上で、サービス パックのアップグレードのインストールが完了しました。

次のステップについては、[6-24 ページの「console.war ファイルの操作」](#)を参照してください。

サービス パックのコンソールモード インストール

サービス パックのコンソールモード インストールは、WebLogic Server へのサービス パックのインストールをテキストベースで実行する方法です。コンソールモード インストールは UNIX システム上でのみ実行可能で、非グラフィック コンソールを備えた UNIX システムを対象としています。コンソールモード インストールは、グラフィックベース インストールと同じ機能を提供します。

コンソールモード インストールの開始

UNIX システム上でコンソールモード インストールを使って サービス パックのアップグレードを開始するには、次の手順を実行します。

1. UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. サービス パック インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install -i console
```

このコマンドでは、*filename* は サービス パック インストーラの名前を表します。

5. [6-12 ページの「コンソールモード インストールの実行」](#)に進みます。

コンソールモード インストールの実行

コンソールモード インストール プロセスを完了するには、各セクションで選択する項目の番号を入力するか、または〔Enter〕を押してデフォルトを受け付け、指示に応答します。インストール プロセスを中止するには、指示に対して `quit` を入力します。選択した内容を確認したり変更したりするには、指示に対して `back` を入力します。

セクション	実行するアクション
[Choose Locale]	<p>言語に対応する番号を入力して、インストール時のテキストを表示する言語を選択する。</p> <pre> ===== Choose Locale... 1- English ->2- 日本語 CHOOSE LOCALE BY NUMBER: ===== </pre> <p>たとえばテキストを日本語で表示する場合は、<code>CHOOSE LOCALE BY NUMBER</code> と表示されたときに <code>2</code> を入力する。デフォルトは <code>locale</code> に依存。</p>
[はじめに]	インストールを続行するには〔Enter〕を押す。

セクション	実行するアクション
[BEA ホーム ディレクトリを選択します]	<p>2 を入力して、サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている BEA ホーム ディレクトリを指定する。</p> <p>次に例を示す。</p> <pre> ===== BEA ホーム ディレクトリを選択します ----- 1- 新しい BEA ホームを作成する 2- 既存の BEA ホームを使用する 番号を入力してください： 2 1- /home3/bea 2- /home2/beahome 使用する BEA ホーム： 1 ===== </pre> <p>この例では、このシステム上にすでに作成されている BEA ホーム ディレクトリを表示するために 2 を入力する。使用する BEA ホーム : と表示されたら、1 を入力して、/home3/bea をこのインストールの BEA ホーム ディレクトリとして指定する。ディレクトリ名ではなく、BEA ホーム ディレクトリに関連付けられている番号を入力する必要がある。</p> <p>注意： BEA ホーム ディレクトリは、対象システム上にインストールされたすべての BEA 製品の中央サポート ディレクトリとして機能する。詳細については、1-8 ページの「BEA ホーム ディレクトリ」を参照。</p>
[インストールしています...]	<p>このウィンドウではユーザ入力は不要。インストール プログラムは、対象の WebLogic Server インスタンス上でサービス パックをインストールしている。</p> <p>注意： インストールのプログレス バーが、特に最後の段階で、長時間停止しても問題はない。プログレス バーが停止してもインストール処理は続行されている。</p>
[インストール完了]	[Enter] を押して、インストール プログラムを終了する。

以上で、サービス パックのアップグレードのインストールが完了しました。

次のステップについては、[6-24 ページの「console.war ファイルの操作」](#)を参照してください。

サービス パックのサイレント インストール

サービス パックのサイレント インストールでは、インストールを開始する前にユーザが作成したテキスト ファイルからコンフィグレーションの設定を読み込むことで、WebLogic Server 上にサービス パックがインストールされます。そのため、インストール プロセスでユーザが何らかの操作を行う必要はありません。サイレント インストールは、Windows システムでも UNIX システムでも利用できます。

サイレント インストールは、いったんインストールのコンフィグレーションを設定してから、そのコンフィグレーションを使用して多数のマシンにインストールを複製する方法の 1 つです。

注意： サイレント インストールを使用するということは、BEA ライセンス契約に同意したことになります。BEA ソフトウェア使用許諾契約が表示されることもなく、契約書の条件に同意することを確認する画面も表示されません。

サイレント インストールの使用：主な手順

サイレント インストールのプロセスには主に 2 つの手順があります。

1. BEA ホーム ディレクトリ、製品ディレクトリ、ドメインおよびサーバ名、インストールに合わせたリスン ポートなど、コンフィグレーション設定が入ったテンプレート ファイルを作成します。

手順の詳細については、[6-15 ページの「テンプレート ファイルの作成」](#)を参照してください。テンプレート ファイルについては、[4-11 ページの「Windows のテンプレート ファイル」](#)と [4-13 ページの「UNIX のテンプレート ファイル」](#)を参照してください。

2. テンプレート ファイルで指定された値を使ってインストール プロセスを開始します。

手順の詳細については、[6-17 ページの「Windows システム上でのサービス パックのサイレント インストールの開始」](#)と [6-18 ページの「UNIX システム上でのサービス パックのサイレント インストールの開始」](#)を参照してください。

テンプレート ファイルの作成

サービス パックのサイレント インストール プロセスでテンプレート ファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 使用しているプラットフォーム固有のテンプレート ファイルをサポートされているブラウザで表示します。以下のテンプレートを使用できます。
 - [Windows のテンプレート ファイル](#)
 - [UNIX のテンプレート ファイル](#)
2. テンプレート ファイルの内容をコピーして、サービス パックのインストーラが入っているディレクトリ内に、`installer.properties` という名前のテキスト ファイルとして保存します。
3. `installer.properties` ファイルで、以下の表に示したキーワードの値を必要なコンフィグレーションに合わせて変更します。

キーワード	入力する値
<code>INSTALLER_UI=</code>	インストール モード。デフォルトは <code>silent</code> で、この値は変更しないこと。
<code>USER_LOCALE=</code>	インストール時に表示される言語を指定する言語コード。この値は、英語を表す <code>en</code> 以外にも、ドイツ語 (Deutsch) を表す <code>de</code> 、スペイン語 (Español) を表す <code>es</code> 、フランス語 (Français) を表す <code>fr</code> 、または日本語を表す <code>ja</code> (または <code>ja_JP</code>) に設定できる。
<code>BEAHOME=</code>	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている BEA ホーム ディレクトリの絶対パス名。
<code>USER_INSTALL_DIR=</code>	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている製品ディレクトリの絶対パス名。

キーワード	入力する値
C_domainName=	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている WebLogic Server デフォルト サーバのドメイン名。デフォルトは mydomain。
C_serverName=	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている WebLogic Server デフォルト サーバのサーバ名。デフォルトは myserver。
C_serverListenPort=	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている WebLogic Server デフォルト サーバの専用 TCP/IP ポート番号。デフォルトでは 7001。
C_serverSSLListenPort=	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられている WebLogic Server デフォルト サーバの専用リスン ポート番号。デフォルトでは 7002。
INSTALL_NT_SERVICE= (Windows システムのみ)	WebLogic Server デフォルト サーバを Windows サービスとしてインストールするかどうかを指定する。デフォルトは no で、この値は変更しないこと。
C_password=	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられているパスワード。
CHOSEN_INSTALL_SET=	サービス パックのアップグレードを適用する WebLogic Server インスタンスに関連付けられているインストールセット。インストールセットは、ServerExample と ServerOnly のいずれかを指定できる。デフォルトは ServerExample。

テンプレート ファイルでは、コメント行の先頭には、ハッシュ マーク (#) が付いています。

ServerOnly インストール セットを指定するには、
CHOSEN_INSTALL_SET=ServerExample 行をコメントアウトし、
CHOSEN_INSTALL_SET=ServerOnly 行のコメントを解除します。

Windows システム上でのサービス パックのサイレント インストールの開始

サイレント インストールを使ってサービス パックをインストールする場合は、標準のインストールと同じ時間がかかります。サイレント インストール中に、インストールが始まったことを示す初期インストール プログラム ウィンドウが一瞬表示されます。これ以外には、インストールが進行中であることを示すウィンドウも正常に完了したことを示すウィンドウも表示されません。

Windows システム上でサイレントモード インストールを使って サービス パックのアップグレードを開始するには、次の手順を実行します。

1. 対象の Windows システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. サービス パック インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
filename.exe -f full_path\installer.properties
```

このコマンドでは、*filename* はサービス パック インストーラの名前を表し、*full_path* は *installer.properties* ファイルの絶対パス名を表します。

5. 次のステップについては、[6-24 ページの「console.war ファイルの操作」](#)を参照してください。

UNIX システム上でのサービス パックのサイレントインストールの開始

サイレント インストールを使ってサービス パックをインストールする場合は、標準のインストールと同じ時間がかかります。インストール時には、[インストールしています...] に続いて、インストールが開始されたことを示す起動メッセージが表示されます。インストールが完了すると、短いメッセージが表示されます。

UNIX システム上でサイレントモード インストールを使って サービス パックのアップグレードを開始するには、次の手順を実行します。

1. UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. サービス パック インストーラをダウンロードしたディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを入力して、インストール手順を開始します。

```
java -cp filename.zip install -f full_path/installer.properties
```

このコマンドでは、*filename* はサービス パック インストーラの名前を表し、*full_path* は `installer.properties` ファイルの絶対パス名を表します。

5. 次のステップについては、[6-24 ページの「console.war ファイルの操作」](#)を参照してください。

サービス パックのアンインストール

サービス パックをアンインストールすると、サービス パックのインストールによってインストールされたすべてのコンポーネントが削除されます。ただし、インストール後に作成されたコンフィグレーションまたはアプリケーション ファイルは削除されません。

サービス パックをアンインストールしても、サービス パックが基本製品に適用されているかどうかに関わらず、WebLogic Server 基本製品の完全インストールはそのままです。次の例に、サービス パックのアンインストール プロセスがどのように機能するかを示します。

例 1 :

1. WebLogic Server 6.0 (サービス パック未適用) をインストールします。
2. WebLogic Server 6.0 (サービス パック 1) をインストールします。
3. WebLogic Server 6.0 (サービス パック 2) をインストールします。
4. WebLogic Server 6.0 (サービス パック 2) をアンインストールします。

結果 : WebLogic Server 6.0 (サービス パック未適用)

例 2 :

1. WebLogic Server 6.0 (サービス パック 1 適用済み) をインストールします。
2. WebLogic Server 6.0 (サービス パック 2) をインストールします。
3. WebLogic Server 6.0 (サービス パック 2) をアンインストールします。

結果 : WebLogic Server 6.0 (サービス パック 1 適用済み)

例 1 で示したように、複数のサービス パックをインストールした場合は、最新のサービス パックをアンインストールするだけで、WebLogic Server 基本製品に戻すことができます。例 2 で示したように、サービス パック適用済みの WebLogic Server インスタンスをインストールした場合、サービス パックをアンインストールすることはできません。

サービス パックをアンインストールするには、次の表に示すプラットフォームごとの手順を実行します。

サービス パックをアンインストールするプラットフォーム 実行する手順

Windows

1. 実行中のサーバをすべて停止する。手順については、[7-21 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止」](#)を参照。
 2. Windows の [スタート] メニューから、[スタート | プログラム | BEA WebLogic E-Business Platform | WebLogic Server 6.1 | Uninstall Service Pack *x*] (*x* は適用されている中で最新のサービス パック) を選択する。BEA インストール プログラムの [アンインストーラ] ウィンドウが表示される。
 3. [削除] をクリックして、アンインストール プログラムを起動する。
 4. [削除が完了しました] ウィンドウで [終了] をクリックする。
-

サービス パックをアンインストールするプラットフォーム 実行する手順

UNIX

1. 実行中のサーバをすべて停止する。手順については、[7-21 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止」](#)を参照。
 2. PATH および CLASSPATH 変数を設定して、JDK 1.3 (またはそれ以降) がインストールされている場所を指定する。これらの変数は、java コマンドラインの引数として指定することも、ソフトウェア付属のサンプルスクリプトを実行して指定することもできる。スクリプトを実行するには、次のディレクトリに移動する。

```
wls_6.0_prod_dir/config/domain_name
```

ここでは、*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、*domain_name* はインストール時に指定したドメインの名前 (デフォルトでは *mydomain*) を表す。
プロンプトで次のコマンドを入力する。

```
. ./setEnv.sh
```
 3. 次のディレクトリに移動する。

```
wls_6.1_prod_dir/uninstaller_servicepack
```

ここでは、*wls_6.1_prod_dir* は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表す。
 4. ソフトウェアをアンインストールする 2 つの方法のどちらかを選択する。
 - GUI ベースのアンインストール プログラムを使用する場合は、手順 5 に進む。
 - コンソールモードを使用する場合は、手順 6 に進む。
 5. (GUI モードを使用する方法) プロンプトで `sh uninstall` コマンドを入力する。[アンインストーラ] ウィンドウで [削除] をクリックしてアンインストール プログラムを起動し、アンインストールが完了したら [削除が完了しました] ウィンドウで [終了] をクリックする。
 6. (コンソールモードを使用する方法) プロンプトで `sh uninstall -i console` コマンドを入力する。アンインストール プロセスが完了したら、[Enter] を押してアンインストーラを終了する。
-

サービス パックの再インストール

サービス パックが適用されている WebLogic Server 6.1 インスタンスに同じサービス パックをインストールしようとした場合、BEA インストール プログラムの応答は以下のいずれかになります。

条件	作業
WebLogic Server 6.1 インスタンスにカスタム サイトからダウンロードしたサービス パックのアップグレードを適用した場合（アップグレードインストール）	BEA インストール プログラムはサービス パックを再インストールする。
サービス パック適用済みの WebLogic Server 6.1 インスタンスがインストールされている場合（完全インストール）	BEA インストール プログラムは、サービス パックを再インストールしない。[終了] ボタンが表示され、クリックするとインストールが中止される。

サービス パックの再インストールを行う場合は、インストールしたときと同じく、起動スクリプトや環境設定スクリプトを含む、修正したすべてのファイルのバックアップ コピーを SP インストーラが作成します。SP インストーラは、これらのファイルのコピーを、`wls_6.1_prod_dir\servicepacks\spN\backup` ディレクトリに格納します。この場合 `wls_6.1_prod_dir` は対象の製品ディレクトリを表します。backup フォルダまたはサブフォルダに、現行バージョンのものとは異なる以前のバージョンのファイルが存在する場合、SP インストーラはファイルのバックアップ コピーを追加作成し、各ファイルの 2 つ目のバックアップ コピーのファイル名に `_001` で始まる数値のサフィックスを付加します。SP インストーラによりファイルのバックアップ コピーが作成されるたびに、サフィックスの数字は増分します。ファイルに修正が加えられた場合、SP インストーラはサフィックスを付加または増分するだけです。

注意: SP インストーラがサフィックスを付加するのは、サービス パックの再インストール前に修正されたファイルに対してのみです。修正されていないファイルには、サフィックスを付けません。したがって、異なるファイルのバージョン比較にサフィックス番号を使うことはできません。

サービス パックによって置換または削除されたファイルの参照および回復

サービス パックのインストールによって置換または削除されたファイルを参照するには、アップグレードされた WebLogic Server インスタンスの `wls_6.1_prod_dir\uninstaller_servicepack` ディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
jar tf baseRest.jar
```

サービス パックのインストールによって置換または削除されたファイルを回復するには、アップグレードされた WebLogic Server インスタンスの `wls_6.1_prod_dir\uninstaller_servicepack` ディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
jar xf baseRest.jar filename
```

`filename` には、回復するファイルの名前を指定します。

SP インストーラはまた、よく修正されるファイルのバックアップ コピーを作成し、`wls_6.1_prod_dir\servicepacks\spN\backup` ディレクトリに格納します。この場合、`wls_6.1_prod_dir` は対象の製品ディレクトリを表します。詳細については、[6-3 ページの「サービス パックのインストール プロセス」](#)および [6-22 ページの「サービス パックの再インストール」](#)を参照してください。

console.war ファイルの操作

WebLogic Server バージョン 6.1 の時点では、WebLogic Server 配布キットの `console.war` ファイルは、以下の Java アーカイブのいずれかにアーカイブされます。

- `wls_6.1_prod_dir\lib\weblogic_sp.jar` または
- `wls_6.1_prod_dir\lib\weblogic.jar`

このパス名では、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表します。

`console.war` ファイルは、WebLogic Server Java アーカイブでパッケージ化されるので、サービス パックのインストールまたはアンインストールの後で `console.war` ファイルをユーザーが作成したドメインにコピーする必要はなくなります。ユーザ作成のドメインの環境を設定する際に通常行う作業を実行するだけで済みます。`weblogic_sp.jar` ファイルおよび `weblogic.jar` ファイルのパスが `CLASSPATH` 変数の設定に含まれていることを確認してください。

サービス パックをインストールしたら、[7-1 ページの「インストール後の作業の実行」](#)の作業を実行して、サービス パックが正しくインストールされたことを確認します。

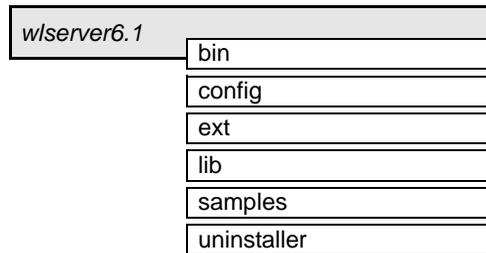
7 インストール後の作業の実行

以下の節では、WebLogic Server のインストール後に実行する作業について説明します。

- WebLogic Server のディレクトリ構造について
- インストールの確認
- デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動
- Administration Console の起動
- デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止
- WebLogic Server のアンインストール
- WebLogic Server の再インストール

WebLogic Server のディレクトリ構造について

WebLogic Server ソフトウェアのインストール時に、インストール プログラムは、WebLogic Server プログラム ファイルとサンプル ファイルに加えてセキュアソケットレイヤ (Secure Socket Layer : SSL) 暗号化ソフトウェア パッケージを含む「標準インストール」で以下のディレクトリ構造を作成します。



この図の製品ディレクトリ `wlsrver6.1` は、WebLogic Server 6.1 のデフォルトディレクトリです。インストール時にこのデフォルトを変更することもできます。

各ディレクトリの内容について以下の表で説明します。

ディレクトリ	内容
<code>bin</code>	<p>実行可能プログラム、および以下のコンポーネントをサポートするための Windows システム用ライブラリ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ JDBC ドライバ ■ Apache プラグイン ■ Internet Server (IS)API プラグイン ■ Netscape Server (NS)API プラグイン ■ その他のネイティブ コードのパッケージ

ディレクトリ	内容
config	<p>コンフィグレーション内のドメインごとのコンフィグレーション リポジトリ。各ドメインは、そのドメインの名前を持つ別々のサブディレクトリ内で定義されている。WebLogic Server の最初のインストールでは、3 つのサブディレクトリが \config ディレクトリ内に作成される。</p> <ul style="list-style-type: none">■ <i>domain_name</i> (mydomain はデフォルト)■ examples■ petstore <p>各サブディレクトリには、Extensible Markup Language (XML) コンフィグレーション ファイル (config.xml) とドメインのセキュリティリソースが格納される。</p> <p>mydomain サブディレクトリには、2 つのコンフィグレーション ファイルが格納される。</p> <ul style="list-style-type: none">■ config.xml <p>最初のインストールでは、config.xml はインストール時に入力された値を反映する。コンフィグレーションを変更すると、その内容がこのファイルに反映される。</p> <ul style="list-style-type: none">■ config.xml.FROM_INSTALLER <p>このファイルは初期 config.xml ファイルをコピーしたもので、インストール時の値を反映している。このファイルは変更されないのので、必要な場合には、config.xml をインストール直後の状態に復元することができる。</p>
ext	XML jar ファイル。

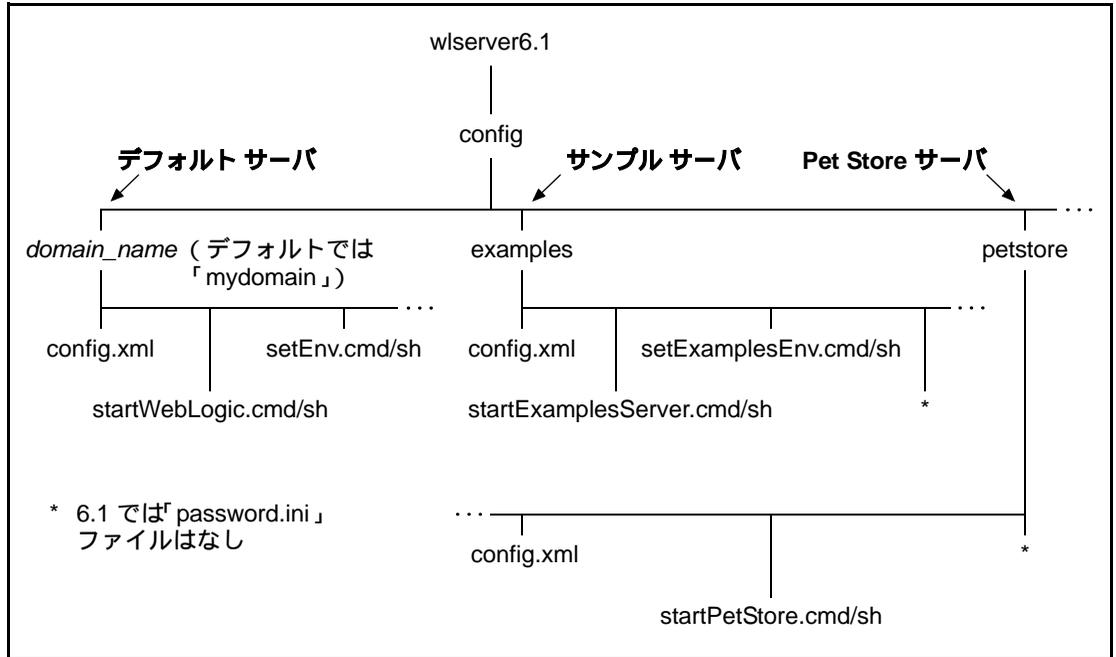
ディレクトリ	内容
lib	<p>WebLogic Server を実行するための jar ファイルと、以下のコンポーネントをサポートするための UNIX システム用ライブラリ。</p> <ul style="list-style-type: none">■ JDBC ドライバ■ Apache プラグイン■ Internet Server (IS) API プラグイン■ Netscape Server (NS) API プラグイン■ その他のネイティブ コードのパッケージ
samples	<p>WebLogic Server を使ってアプリケーションを開発する方法をわかりやすく示すためのサンプルコードとリソース。samples ディレクトリには、以下のサブディレクトリが格納される。</p> <ul style="list-style-type: none">■ examples WebLogic Server の機能の多くを例示する簡単なアプリケーションのコレクション。■ petStore WebLogic Server Pet Store アプリケーション。Sun Microsystems, Inc. の J2EE Blueprint サンプルに基づき、必要な機能をすべて備えた e- コマース アプリケーション。J2EE Blueprint サンプルは、WebLogic Server の多彩な独自機能の一部を示すために若干変更されている。■ eval Cloudscape リレーショナル データベース管理システム (RDBMS) の評価版。サンプルおよび Pet Store アプリケーションが RDBMS を処理できるように含まれている。
uninstaller	<p>WebLogic Server 6.1 ソフトウェアをアンインストールするために必要なコード。</p>

ディレクトリ	内容
uninstaller_servicepack	WebLogic Server 6.1 サービス パックをアンインストールするために必要なコード。このディレクトリは、サービス パックのアップグレードを WebLogic Server 6.1 ソフトウェアに適用した場合にのみ表示される。
servicepacks	WebLogic Server 6.1 ソフトウェア上にインストールされた各サービス パック（現在、このディレクトリは使用されていない。空になっている）。このディレクトリは、サービス パックのアップグレードを WebLogic Server 6.1 ソフトウェアに適用した場合にのみ表示される。

インストールの確認

WebLogic Server の「標準インストール」インストールには、以下の図で示すように、3 種類のサーバに対するディレクトリ構造があります。WebLogic Server ソフトウェアが正しくインストールされていることを確認する方法の 1 つは、このサーバのいずれかを起動することです。

図 7-1 WebLogic Server デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバのデフォルト構造



注意： サンプルおよび Pet Store アプリケーションは、wlsrver6.1\samples ディレクトリ構造内にあります。

■ デフォルトサーバ

デフォルトサーバ、別名「管理サーバ」は、インストールプロセスで入力したデフォルトサーバコンフィグレーション属性を含むデフォルトサーバの属性を定義する関連コンフィグレーションファイル (config.xml) を使用します。また、デフォルトコンフィグレーションファイルを使ってデフォルトサーバを起動したり、デフォルトサーバを構築および実行するための環境を設定したりするためのコマンドスクリプトが用意されています。Windows システムでは、startWebLogic.cmd および setEnv.cmd、UNIX システムでは、startWebLogic.sh および setEnv.sh です。

■ サンプル サーバ

サンプル サーバは、WebLogic Server 配布キット内のすべてのサンプル アプリケーションの属性を定義する関連コンフィグレーション ファイル (`config.xml`) を使用します。また、サンプル コンフィグレーション ファイルを使ってサンプル サーバを起動したり、サンプル サーバを構築および実行するための環境を設定したりするためのコマンド スクリプトも用意されています。Windows システムでは、`startExamplesServer.cmd` および `setExamplesEnv.cmd`、UNIX システムでは、`startExamplesServer.sh` および `setExamplesEnv.sh` です。

■ Pet Store サーバ

Pet Store サーバは、Pet Store アプリケーションに必要な属性を定義する関連コンフィグレーション ファイル (`config.xml`) を使用します (WebLogic Server ツアーで提供される Pet Store アプリケーションは、J2EE プラットフォームおよび WebLogic Server の機能を例示します)。また、Pet Store コンフィグレーション ファイルを使って Pet Store サーバを起動するためのコマンド スクリプトも用意されています。Windows システムでは、`startPetStore.cmd`、UNIX システムでは、`startPetStore.sh` です。

デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動

以下の節では、Windows または UNIX システム上でデフォルト サーバ、サンプル サーバ、および Pet Store サーバを起動する手順について説明します。Pet Store サーバの起動手順では、Pet Store サーバ上で Pet Store アプリケーションを起動する手順についても説明します。

- 7-9 ページの「Windows システム上でのデフォルト サーバの起動」
- 7-11 ページの「UNIX システム上でのデフォルト サーバの起動」
- 7-12 ページの「Windows システム上でのサンプル サーバの起動」
- 7-15 ページの「UNIX システム上でのサンプル サーバの起動」

- 7-16 ページの「Windows システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動」
- 7-19 ページの「UNIX システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動」

これらのサーバは、インストール時に [デフォルト サーバ コンフィグレーション] ウィンドウで入力したポート (デフォルトでは、非セキュア接続はポート 7001、SSL 接続は 7002) を共有するようにコンフィグレーションされているので、同時に実行することはできません。ただし、サーバの起動コマンドスクリプトを編集し、以下の Java コマンドライン オプションを指定すると、サーバのポート コンフィグレーションを変更できます。

- `-Dweblogic.ListenPort=your_non-secure_port_number`
- `-Dweblogic.SSL.ListenPort=your_SSL_port_number`

たとえば、以下のリストでは、追加された Java コマンドライン オプション (太字部分) は、サンプル ポート コンフィグレーションを 7005 (非セキュア) および 7006 (SSL) に変更します。これらの値は、サンプル サーバを起動するために `startExamplesServer.cmd/sh` スクリプトを変更したときに実行時リスンポート値になり、サンプル サーバの `config.xml` ファイルに格納されているリスンポート値は無視されます。

コード リスト 7-1 変更された `startExamplesServer.cmd` スクリプト

```
.
.
.
"%JAVA_HOME%\bin\java" -hotspot -ms64m -mx64m -classpath
%CLASSPATH% -Dweblogic.Domain=examples
-Dweblogic.Name=examplesServer -Dbea.home="C:\bea"
-Dcloudscape.system.home=./samples/eval/cloudscape/data
-Djava.security.policy=="C:\bea\wlserver6.1/lib/weblogic.policy"
-Dweblogic.ListenPort=7005 -Dweblogic.SSL.ListenPort=7006
weblogic.Server
goto finish

:finish
cd config\examples
ENDLOCAL
```

デフォルト サーバおよび Pet Store サーバはすべて、WebLogic Server インストール時に作成した `system` アカウントである `system ID` で動作します。WebLogic Server バージョン 6.1 では、3 つすべてのサーバのシステム パスワードは、インストール時に指定したパスワードです。`password.ini` ファイルは WebLogic Server 6.1 のインストールに含まれていませんが、WebLogic Server は、サンプルサーバおよび Pet Store サーバによる `password.ini` ファイルの使用をサポートします。

デフォルト サーバ、サンプル サーバ、または Pet Store サーバを起動した後で、Administration Console を起動し、サーバおよびサーバが実行しているアプリケーションをモニタできます。Administration Console は、WebLogic Server に対する Web ベースの管理者フロントエンド（管理者クライアント インタフェース）です。

HTTP トンネリングは、すべてのサーバに対してデフォルトで無効になっています。したがって、WebLogic のすべての Java ベース クライアントは、HTTP および HTTPS（SSL を使用した HTTP）を使ってサーバに接続することができません。たとえば、Java ベース クライアントのサンプル（`examples.ejb.basic.statelessSession` など）を HTTP/HTTPS を使って実行すると、サンプルは失敗します。ブラウザベースのクライアントは、HTTP トンネリングを使用しないので、このコンフィグレーションの影響を受けません。この問題を解決するには、HTTP トンネリングを有効化する必要があります。HTTP トンネリングを有効化する方法の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server Web コンポーネントのコンフィグレーション](#)」を参照してください。

Windows システム上でのデフォルト サーバの起動

デフォルト サーバを起動する方法を選択します。

- ショートカット アイコン
- サンプル スクリプト
- コマンド

以下の表で、各方法の手順を説明します。

デフォルト サーバの起動方法 実行する手順

ショートカット アイコンの使用

1. [スタート | プログラム | BEA WebLogic E-Business Platform | WebLogic Server 6.1 | Start Default Server] を選択する。
サーバ ウィンドウに次の指示が表示される。
WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：
2. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押す。デフォルト サーバが、system ID (system アカウント) の下で起動する。

注意： [スタート] メニューからデフォルト サーバを起動する方法は、startWebLogic.cmd スクリプトを実行する方法と同じ。

サンプル スクリプト
startWebLogic.cmd
の実行

1. コマンドライン シェルを開く。
 2. 次のディレクトリに移動する。
`wls_6.1_prod_dir\config\domain_name`
ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、`domain_name` はインストール時に指定したドメインの名前 (デフォルトでは `mydomain`) を表す。
 3. 指示が表示されたら、startWebLogic と入力する。
startWebLogic.cmd スクリプトにより、デフォルト サーバは `config\domain_name\config.xml` ファイルを使って起動され、CLASSPATH 変数が正しく設定される。
サーバ ウィンドウに次の指示が表示される。
WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：
 4. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押す。デフォルト サーバが、system ID (system アカウント) の下で起動する。
-

デフォルトサーバの起動方法 実行する手順

コマンドラインの使用 WebLogic Server は Java クラス ファイルであり、他の Java アプリケーションと同じように、`java` コマンドを使用して起動できる。WebLogic Server を起動するには多くの引数を指定する必要があるため、コマンドラインが長くなることもある。

コマンドラインからのデフォルトサーバの起動の詳細については、『管理者ガイド』の「[コマンドラインからの WebLogic 管理サーバの起動](#)」を参照。

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

UNIX システム上でのデフォルトサーバの起動

UNIX システム上でデフォルトサーバを起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
wls_6.1_prod_dir/config/domain_name
```

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、`domain_name` はインストール時に指定したドメインの名前（デフォルトでは `mydomain`）を表します。

2. 以下の手順のいずれかを実行します。

- 新しいシェルでデフォルトサーバを起動する場合

```
sh startWebLogic.sh
```

- 現在のシェルでデフォルトサーバを起動する場合

```
startWebLogic.sh
```

`startWebLogic.sh` スクリプトにより、デフォルトサーバは `config/domain_name/config.xml` ファイルを使って起動され、`CLASSPATH` 変数が正しく設定されます。

サーバ ウィンドウに次の指示が表示されます。

WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：

3. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押します。デフォルト サーバが、system ID (system アカウント) の下で起動します。

サーバの起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

Windows システム上でのサンプル サーバの起動

サンプル アプリケーションは、`wls_6.1_prod_dir\samples\examples` ディレクトリ (`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) に入っています。サンプルは、WebLogic Server を使用したさまざまな機能を示します。サンプル サーバおよびサンプル アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、`wls_6.1_prod_dir\samples\examples\example.html` ファイルを参照してください。

サンプル サーバを起動する方法を選択します。

- ショートカット アイコン
- サンプル スクリプト
- コマンド

以下の表で、各方法の手順を説明します。

サンプル サーバの起動方法	実行する手順
ショートカット アイコンの使用	<ol style="list-style-type: none">1. [スタート プログラム BEA WebLogic E-Business Platform WebLogic Server 6.1 Examples Start Examples Server] を選択する。サーバ ウィンドウに次の指示が表示される。 WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください :2. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押す。サンプル サーバが、system ID (system アカウント) の下で起動する。 <p>注意: [スタート] メニューからサンプル サーバを起動する方法は、 <code>startExamplesServer.cmd</code> スクリプトを実行する方法と同じ。</p>

サンプル サーバの起動方法 実行する手順

サンプル スクリプト startExamplesServer.cmd の実行	<ol style="list-style-type: none">1. コマンドライン シェルを開く。2. 次のディレクトリに移動する。 <code>wls_6.1_prod_dir\config\examples</code> ここでは、<code>wls_6.1_prod_dir</code> は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表す。3. 指示が表示されたら、startExamplesServer と入力する。 startExamplesServer.cmd スクリプトは、適切なサンプル サーバの CLASSPATH 変数を設定し、weblogic.Domain プロパティを examples に設定することで config\examples\config.xml ファイルのコンフィギュレーションをロードする。サーバ ウィンドウに次の指示が表示される。 WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：4. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押す。サンプル サーバが、system ID (system アカウント) の下で起動する。
--	--

コマンド ラインの使用	WebLogic Server は Java クラス ファイルであり、他の Java アプリケーションと同じように、java コマンドを使用して起動できる。WebLogic Server を起動するには多くの引数を指定する必要があるため、コマンドラインが長くなることもある。 コマンドラインからのサンプル サーバの起動の詳細については、『管理者ガイド』の「 コマンドラインからの WebLogic 管理サーバの起動 」を参照。
-------------	--

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

UNIX システム上でのサンプル サーバの起動

サンプル アプリケーションは、`wls_6.1_prod_dir\samples\examples` ディレクトリ (`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリ) に入っています。サンプルは、WebLogic Server を使用したさまざまな機能を示します。サンプル サーバおよびサンプル アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、`wls_6.1_prod_dir/samples/examples/example.html` ファイルを参照してください。

UNIX システム上でサンプル サーバを起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
wls_6.1_prod_dir/config/examples
```

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表します。

2. 以下の手順のいずれかを実行します。

- 新しいシェルでサンプル サーバを起動する場合

```
sh startExamplesServer.sh
```

- 現在のシェルでサンプル サーバを起動する場合

```
startExamplesServer.sh
```

`startExamplesServer.sh` スクリプトは、適切なサンプル サーバの `CLASSPATH` 変数を設定し、`weblogic.Domain` プロパティを `examples` に設定することで `config/examples/config.xml` ファイルのコンフィグレーションをロードします。

サーバ ウィンドウに次の指示が表示されます。

WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：

3. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押します。サンプル サーバが、`system ID` (`system` アカウント) の下で起動します。

サーバの起動と停止の詳細については、『[管理者ガイド](#)』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

Windows システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動

WebLogic Server ツアーで提供される Pet Store サーバは Pet Store アプリケーションを実行して、J2EE プラットフォームおよび WebLogic Server の機能を例示します。サーバが起動したら、ブラウザが自動的に起動して、サーバ上で実行中の WebLogic Server ツアーを指します。Pet Store サーバおよび Pet Store アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、`wls_6.1_prod_dir\samples\petStore\petstore.html` ファイルを参照してください。

Pet Store サーバおよびアプリケーションを起動するには、以下の方法のいずれかを利用します。

- ショートカット アイコン
- サンプル スクリプト
- コマンド

以下の表で、各方法の手順を説明します。

Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動方法	実行する手順
ショートカットアイコンの使用	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="616 386 1184 613">1. [スタート プログラム BEA WebLogic E-Business Platform WebLogic Server 6.1 WebLogic Server Tour Run Pet Store] を選択する。 サーバ ウィンドウに次の指示が表示される。 WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：<li data-bbox="616 630 1184 751">2. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押す。Pet Store サーバが、system ID (system アカウント) の下で起動する。 <p data-bbox="616 776 1184 868">注意： [スタート] メニューから Pet Store サーバを起動する方法は、startPetStore.cmd スクリプトを実行する方法と同じ。</p>

Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動方法

実行する手順

サンプル スクリプト
startPetStore.cmd の
実行

1. コマンドライン シェルを開く。
2. 次のディレクトリに移動する。
`wls_6.1_prod_dir\config\petstore`
ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表す。
3. 指示が表示されたら、`startPetStore` と入力する。
`startPetStore.cmd` スクリプトは、適切なサンプル サーバの `CLASSPATH` 変数を設定し、`weblogic.Domain` プロパティを `petstore` に設定することで `config\petstore\config.xml` ファイルのコンフィグレーションをロードする。サーバ ウィンドウに次の指示が表示される。
WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：
4. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押す。Pet Store サーバが、`system ID (system アカун ト)` の下で起動する。

コマンド ラインの使用

WebLogic Server は Java クラス ファイルであり、他の Java アプリケーションと同じように、`java` コマンドを使用して起動できる。WebLogic Server を起動するには多くの引数を指定する必要があるため、コマンドラインが長くなることもある。

コマンドラインからの Pet Store サーバの起動の詳細については、『[管理者ガイド](#)』の「[コマンドラインからの WebLogic 管理サーバの起動](#)」を参照。

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『[管理者ガイド](#)』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

UNIX システム上での Pet Store サーバおよびアプリケーションの起動

WebLogic Server ツアーで提供される Pet Store サーバは Pet Store アプリケーションを実行して、J2EE プラットフォームおよび WebLogic Server の機能を例示します。サーバが起動したら、ブラウザが自動的に起動して、サーバ上で実行中の WebLogic Server ツアーを指します。Pet Store サーバおよび Pet Store アプリケーションのコンフィグレーションと実行の詳細については、`wls_6.1_prod_dir\samples\petStore\petstore.html` ファイルを参照してください。

UNIX システム上で Pet Store サーバを起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに移動します。

```
wls_6.1_prod_dir/config/petstore
```

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表します。

2. 以下の手順のいずれかを実行します。

- 新しいシェルで Pet Store サーバを起動する場合

```
sh startPetStore.sh
```

- 現在のシェルで Pet Store サーバを起動する場合

```
startPetStore.sh
```

`startPetStore.sh` スクリプトは、適切なサンプル サーバの `CLASSPATH` 変数を設定し、`weblogic.Domain` プロパティを `petstore` に設定することで `config/petstore/config.xml` ファイルのコンフィグレーションをロードします。

サーバ ウィンドウに次の指示が表示されます。

WebLogic サーバを起動するためのパスワードを入力してください：

3. インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを入力して、[Enter] を押します。Pet Store サーバが、`system` ID (`system` アカウント) の下で起動します。

サーバの起動と停止の詳細については、『[管理者ガイド](#)』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

Administration Console の起動

デフォルト コンソールからデフォルト サーバにアクセスする前に、デフォルト サーバを起動する必要があります。同様に、サンプル コンソールからサンプル サーバにアクセスする前に、サンプル サーバを起動する必要があります。また、Pet Store コンソールから Pet Store サーバにアクセスする前に、Pet Store サーバを起動する必要があります。デフォルト コンソール、サンプル コンソール、Pet Store コンソールは、WebLogic Server に対する Web ベースの管理者フロントエンド（管理者クライアント インタフェース）である Administration Console のインスタンスです。

注意： WebLogic Server サーバの起動の詳細については、[7-7 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの起動」](#)を参照してください。

デフォルト、サンプル、または Pet Store Administration Console を起動するには、次の手順に従います。

1. サポートされているブラウザで、次の URL にアクセスします。

```
http://hostname:port/console
```

各値の説明は次のとおりです。

- *hostname* は、WebLogic Server ソフトウェアをインストールしたマシンの名前または IP アドレスです。
- *port* は、デフォルト サーバ、サンプル サーバ、または Pet Store サーバのリスン ポートのアドレスです。WebLogic Server のデフォルトのリスン ポートは 7001 です。

Windows システムでは、Windows ショートカットを使用してデフォルト Administration Console を起動することもできます。たとえば、[スタート] メニューからコンソールを起動するには、[スタート | プログラム | BEA WebLogic E-Business Platform | WebLogic Server 6.1 | Start Default Console] を選択します。

2. デフォルト、サンプル、または Pet Store Administration Console を起動する際には、サーバにログインするためのユーザ名とパスワードを要求されます。ユーザ名には `system` を、パスワードにはインストール時に設定したパスワードを入力します。

Administration Console を使用して WebLogic Server サーバをコンフィギュレーションする方法の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止

以下の節では、Windows または UNIX システム上でデフォルト サーバ、サンプル サーバ、および Pet Store サーバを停止する手順について説明します。Pet Store サーバの停止手順では、Pet Store サーバ上で Pet Store アプリケーションを停止する手順についても説明します。

- 7-22 ページの「デフォルト サーバの停止」
- 7-24 ページの「サンプル サーバの停止」
- 7-26 ページの「Pet Store サーバおよびアプリケーションの停止」

デフォルト サーバの停止

デフォルト サーバは、以下の表で説明するように、コンソールからもコマンドラインからも停止できます。

デフォルト サーバの停止方法	実行する手順
Administration Console	<ol style="list-style-type: none">Administration Console のドメイン ツリー（左ペイン）で、[サーバ]の前の + をクリックし、サーバのリストを表示する。停止するサーバの名前を右クリックし、[このサーバを停止] を選択する。

デフォルト サーバの停止方法	実行する手順
-----------------------	---------------

コマンドライン

1. コマンドライン シェルを開く。
2. PATH および CLASSPATH 変数を設定して、JDK 1.3 (またはそれ以降) がインストールされている場所を指定する。これらの変数は、java コマンドラインの引数として指定することも、ソフトウェア付属のサンプル スクリプトを実行して指定することもできる。スクリプトを実行するには、次のディレクトリに移動する。

`wls_6.1_prod_dir\config\domain_name`
(Windows の場合)

`wls_6.1_prod_dir/config/domain_name`
(UNIX の場合)

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、`domain_name` はインストール時に指定したドメインの名前 (デフォルトでは `mydomain`) を表す。

Windows システムでは、次のコマンドを入力する。

```
setEnv
```

UNIX システムでは、次のコマンドを入力する。

```
./setEnv.sh
```

3. 次のコマンドを入力する。

```
java weblogic.Admin -url localhost:port  
-username username -password password  
SHUTDOWN
```

このコマンドラインの引数の定義は次のとおり。

`port` は、デフォルトサーバのリスンポート (デフォルトは 7001) を表す。

`username` は、インストール時に設定した system ユーザ名を表す。

`password` は、インストール時に [システムパスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを表す。

サンプル サーバの停止

サンプル サーバは、以下の表で説明するように、コンソールからもコマンドラインからも停止できます。

サンプル サーバの停止方法	実行する手順
Administration Console	<ol style="list-style-type: none">Administration Console のドメイン ツリー（左ペイン）で、[サーバ]の前の+をクリックし、停止するサーバを選択する。停止するサーバ名を右クリックし、[このサーバを停止]を選択する。

サンプルサーバの停止方法 実行する手順

コマンドライン

1. コマンドライン シェルを開く。
2. `PATH` および `CLASSPATH` 変数を設定して、JDK 1.3 (またはそれ以降) がインストールされている場所を指定する。これらの変数は、`java` コマンドラインの引数として指定することも、ソフトウェア付属のサンプルスクリプトを実行して指定することもできる。スクリプトを実行するには、次のディレクトリに移動する。

`wls_6.1_prod_dir\config\examples`
(Windows の場合)

`wls_6.1_prod_dir/config/examples`
(UNIX の場合)

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表す。

Windows システムでは、次のコマンドを入力する。

```
setExamplesEnv
```

UNIX システムでは、次のコマンドを入力する。

```
./setExamplesEnv.sh
```

3. 次のコマンドを入力する。

```
java weblogic.Admin -url  
localhost:port -username username  
-password password SHUTDOWN
```

このコマンドラインの引数の定義は次のとおり。

`port` は、サンプルサーバのリスンポート (デフォルトは 7001) を表す。

`username` は、インストール時に設定した system ユーザ名を表す。

`password` は、インストール時に [システムパスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを表す。

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

Pet Store サーバおよびアプリケーションの停止

Pet Store サーバは、以下の表で説明するように、コンソールからもコマンドラインからも停止できます。

Pet Store サーバの停止方法	実行する手順
Administration Console	<ol style="list-style-type: none">Administration Console のドメイン ツリー（左ペイン）で、[サーバ]の前の+をクリックし、停止するサーバを選択する。停止するサーバ名を右クリックし、[このサーバを停止]を選択する。

Pet Store サーバの停止方法 実行する手順

コマンドライン

1. コマンドライン シェルを開く。
2. `PATH` および `CLASSPATH` 変数を設定して、JDK 1.3 (またはそれ以降) がインストールされている場所を指定する。これらの変数は、`java` コマンドラインの引数として指定することも、ソフトウェア付属のサンプル スクリプトを実行して指定することもできる。スクリプトを実行するには、次のディレクトリに移動する。

```
wls_6.1_prod_dir\config\examples  
(Windows の場合)
```

```
wls_6.1_prod_dir/config/examples  
(UNIX の場合)
```

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表す。

Windows システムでは、次のコマンドを入力する。

```
setExamplesEnv
```

UNIX システムでは、次のコマンドを入力する。

```
./setExamplesEnv.sh
```

3. 次のコマンドを入力する。

```
java weblogic.Admin -url  
localhost:port -username username  
-password password SHUTDOWN
```

このコマンドラインの引数の定義は次のとおり。

`port` は、Pet Store サーバのリスン ポート (デフォルトは 7001) を表す。

`username` は、インストール時に設定した system ユーザ名を表す。

`password` は、インストール時に [システム パスワードを作成します] ウィンドウで指定したパスワードを表す。

WebLogic Server の起動と停止の詳細については、『管理者ガイド』の「[WebLogic Server の起動と停止](#)」を参照してください。

WebLogic Server のアンインストール

WebLogic Server のアンインストールは、インストールに関連付けられている BEA ホーム ディレクトリを削除しませんが、インストール プログラムによってインストールされた WebLogic Server コンポーネントをすべて削除します。アンインストールは、以下のいずれかに該当しない限り、インストールに関連付けられた製品ディレクトリを削除します。

- 製品ディレクトリに、ユーザが作成したコンフィグレーションまたはアプリケーション ファイルがある場合 - アンインストールによって、ユーザが作成したコンフィグレーションまたはアプリケーション ファイルは削除されません。
- 製品ディレクトリ構造内、特に `uninstaller` ディレクトリ内からアンインストールが呼び出された場合。

WebLogic Server インストールが、ユーザのサイトでサービス パックによってアップグレードされた場合、WebLogic Server をアンインストールする前にサービス パックをアンインストールする必要があります。サービス パックのアンインストールの詳細については、[6-18 ページの「サービス パックのアンインストール」](#)を参照してください。

WebLogic Server をアンインストールするには、次の表に示すプラットフォームごとの手順を実行します。

WebLogic Server をアンインストールするプラットフォーム **実行する手順**

Windows

1. 実行中のサーバをすべて停止する。手順については、[7-21 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止」](#)を参照。
 2. Windows の [スタート] メニューから、[スタート | プログラム | BEA WebLogic E-Business Platform | WebLogic Server 6.1 | Uninstall WebLogic Server 6.1 (または Uninstall WebLogic Server 6.1 (spx))] を選択する。
BEA インストール プログラムの [アンインストーラ] ウィンドウが表示される。
 3. [削除] をクリックして、アンインストール プログラムを起動する。
 4. [削除が完了しました] ウィンドウで [終了] をクリックする。
-

WebLogic Server をアンインストール するプラットフォーム

実行する手順

UNIX

1. 実行中のサーバをすべて停止する。手順については、[7-21 ページの「デフォルト、サンプル、および Pet Store サーバの停止」](#)を参照。
 2. PATH および CLASSPATH 変数を設定して、JDK 1.3（またはそれ以降）ソフトウェアがインストールされている場所を指定する。これらの変数は、java コマンドラインの引数として指定することも、ソフトウェア付属のサンプル スクリプトを実行して指定することもできる。スクリプトを実行するには、次のディレクトリに移動する。

```
wls_6.1_prod_dir/config/domain_name
```

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアをインストールした製品ディレクトリを、`domain_name` はインストール時に指定したドメインの名前（デフォルトでは `mydomain`）を表す。
プロンプトで次のコマンドを入力する。

```
./setEnv.sh
```
 3. 次のディレクトリに移動する。

```
wls_6.1_prod_dir/uninstaller
```

ここでは、`wls_6.1_prod_dir` は WebLogic Server ソフトウェアがインストールされた製品ディレクトリを表す。
 4. ソフトウェアをアンインストールする 2 つの方法のどちらかを選択する。
 - GUI ベースのアンインストール プログラムを使用する場合は、手順 5 に進む。
 - コンソールモードを使用する場合は、手順 6 に進む。
 5. (GUI モードを使用する方法) プロンプトで `sh uninstall` コマンドを入力する。[アンインストーラ] ウィンドウで [削除] をクリックしてアンインストール プログラムを起動し、アンインストールが完了したら [削除が完了しました] ウィンドウで [終了] をクリックする。
 6. (コンソールモードを使用する方法) プロンプトで `sh uninstall -i console` コマンドを入力する。アンインストール プロセスが完了したら、[Enter] を押してアンインストーラを終了する。
-

WebLogic Server の再インストール

WebLogic Server 6.1 がインストールされているシステム上で BEA インストールプログラムを起動すると、このプログラムによって既存のインストールが検出され、以下の表に示す指示が表示されます。

クリック対象	目的
[キャンセル]	[BEA ホーム ディレクトリを選択します] ウィンドウに戻る。同じ BEA ホーム ディレクトリを持つ複数の WebLogic Server 6.1 をインストールすることはできない。異なる BEA ホーム ディレクトリを使ってソフトウェアのインストールを続行するには、WebLogic Server インストールが入っていない既存の BEA ホーム ディレクトリを選択するか、または新規の BEA ホーム ディレクトリを作成する。
[終了]	インストール プログラムを終了して、前のインストールをアンインストールする。アンインストール プログラムを起動するには 7-28 ページの「WebLogic Server のアンインストール」 の手順に従い、ソフトウェアを再インストールするには以下の参照先のいずれかの手順に従う。 <ul style="list-style-type: none">■ 2-1 ページの「GUI モードによる WebLogic Server のインストール」■ 3-1 ページの「UNIX システム上でのコンソールモードインストールによる WebLogic Server のインストール」■ 4-1 ページの「サイレントインストールによる WebLogic Server のインストール」

WebLogic Server バージョン 6.1 の時点では、WebLogic Server 6.0 または 6.1 の前のインストールに上書きして WebLogic Server を再インストールすることはできません。WebLogic Server を再インストールするには、前のインストールをまずアンインストールする必要があります。

WebLogic Server の再インストール時のマシン名に関する注意事項

WebLogic Server 6.1 をアンインストールしたあとマシンに再インストールする場合、インストール プログラムはそのマシンのプライマリ名をチェックし、registry.xml ファイルに記載されているマシン名と比較します。両者が一致しない場合（たとえば、マシンのプライマリ名を変更した場合など）には、インストールは失敗します。registry.xml ファイル内のマシン名を更新すれば、この問題を回避することができます。

索引

数字

128 ビット暗号化の有効化
考慮事項 1-13

A

Administration Console
起動 7-20

B

BEA インストール プログラム 1-2
BEA ホーム ディレクトリ
概要 1-8
コンポーネントの説明 1-10
サンプル構造 1-9

C

config.xml.FROM_INSTALLER 7-3

G

GUI モード インストール
概要 2-2

I

installer.properties
変更 4-3

J

jdk131 ディレクトリ
概要 1-12

L

license.bea
概要 1-11
更新 5-3
license_wls60.bea ライセンス
変換 5-6

P

Pet Store
サーバの停止 7-26
Pet Store サーバ
UNIX システム上での起動 7-19
Windows システム上での起動 7-16
Windows でスクリプトを使った起動
7-18
起動 7-7
コマンド ラインからの起動 7-18
ショートカットを使った起動 7-17
停止 7-21

R

registry.xml
概要 1-10

U

UpdateLicense ツール
概要 1-11
使い方 5-4, 5-5

W

WebLogic Express のインストール 1-2
WebLogic Server 5.1 以前のアップグレード

考慮事項 1-14

WebLogic Server の Windows サービス

概要 2-9

WebLogic Server の Windows ショートカット

概要 2-12

WebLogic Server の再インストール 7-31

WebLogicLicense.XML ライセンス

変換 5-7

あ

アンインストール

UNIX システムの場合 7-30

Windows システムの場合 7-29

い

一時的ストレージの要件 1-7

印刷、製品のマニュアル 1-x

インストール

UNIX システム上での GUI モード
インストールの開始 2-4

UNIX システム上での起動 2-4

Windows システム上での GUI モード
インストールの開始 2-3

Windows システム上での起動 2-3

確認 7-5

グラフィックベース 2-2

コンソールモード 3-3

サイレント 4-2, 4-3

テキストベース 3-2

インストール プログラム

ウィンドウの説明 2-6

コンソールモードの説明 3-5

インストール プログラム、BEA 1-2

インストール方法 1-2

う

ウィンドウの説明

BEA ロゴ 2-6

[BEA ホーム ディレクトリを選択しま

す] 2-7

[WebLogic Server サービスのイン
ストール] 2-8

[インストール セットの選択] 2-7

[システム パスワードを作成します]
2-9

[製品のディレクトリを選択します]
2-7

[デフォルト サーバ コンフィグ
レーション] 2-8

[はじめに] 2-6

[ライセンス契約] 2-7

か

カスタマ サポート情報 1-xi

こ

考慮事項

128 ビット暗号化の有効化 1-13

WebLogic Server 5.1 以前のアップ
グレード 1-14

コンソールモード インストール 3-3

概要 3-2

コンフィグレーションのアップグレード
7-21

さ

サービス パック

console.war ファイルの操作 6-24

GUI モード インストール 6-8

アンインストール 6-18

インストール中に置換または削除され
たファイルの参照および回復
6-23

インストールの前提条件 6-4

インストール プロセス 6-3

インストール方法 6-7

概要 6-2

コンソールモード インストール 6-10

再インストール 6-22

- サイレント インストール 6-14
 - 使用可能な 6-2
 - 内容 6-3
 - 配布 6-2
- サイレント インストール
 - installer.properties ファイル 4-3
 - UNIX システム上でのインストールの開始 4-8, 4-9
 - UNIX のテンプレート 4-13
 - Windows システム上でのインストールの開始 4-7
 - Windows のテンプレート 4-11
 - 概要 4-2
 - テンプレート ファイルの作成 4-3
 - プロセス 4-3
- サポート
 - 技術情報 1-xi
- サンプル
 - サーバの停止 7-24
- サンプル サーバ
 - UNIX システム上での起動 7-15
 - Windows システム上での起動 7-12
 - Windows でスクリプトを使った起動 7-14
 - 起動 7-7
 - コマンドラインからの起動 7-14
 - ショートカットを使った起動 7-13
 - 停止 7-21

し

- システム パスワード
 - GUI モードでの設定 2-9
 - コンソールモードでの設定 3-11
 - サイレント インストールでの設定 4-5
- システム要件 1-6

そ

- ソフトウェア
 - コンポーネント 1-4
 - 要件 1-8

て

- ディレクトリ構造 7-2
- デフォルト サーバ
 - GUI モード インストールを使ったコンフィグレーション 2-8
 - UNIX システム上での起動 7-11
 - Windows システム上での起動 7-9
 - Windows でスクリプトを使った起動 7-10
- 起動 7-7
 - コマンドラインからの起動 7-11
 - コンソールモードでのコンフィグレーション 3-10
 - ショートカットを使った起動 7-10
 - 停止 7-21, 7-22
- テンプレート ファイル
 - UNIX 4-13
 - Windows 4-11

は

- 配布
 - WebLogic Server 1-3
 - Weblogic Server サービス パック 1-3
- バックアップ
 - サービス パックのインストール中 6-3, 6-22, 6-23
 - ファイルのサフィックス 6-3, 6-22, 6-23

ひ

- 評価ライセンス 5-2

ま

- マニュアル、入手先 1-x

む

- 無期限のライセンス 5-2

よ

要件

一時的ストレージ 1-7

システム 1-6

ソフトウェア 1-8

ら

ライセンス

概要 5-1

取得 5-2

評価 5-2

無期限 5-2